240
75

武
之240

武具訓蒙圖彙敘

夫經文緯武如管窺蠡測醯雞笑天者固不足道之也所以貴聖人者知國之所治亂也主將之道在知士遇士無禮則不可以得賢得賢之本在學力學力不到安能格物致知乎粤百領甲冑之圖彙雖似無用之辨不急之察猷乱世之甲兵饑餒之糧餉所必不容已者也於無事之時講之習之亦足爲却乱保身之助詭言神授僞

托秘傳隱慮不露每思深愆將夫至察
日用之扶則瓊漿玉粒何所生也肥鮮
甘脫何所成也高樓廣閣安其居何所
建也綾羅衣裳溫其體何所關也然有
貪祿無知藐君命者如事已艱難死生
反掌兵杖之道也假使辯折親疎之際
而親者主持罕不可謾談雖懷真抱德
之士不可輕授若薦兵爲死生之攸係
不可渴而鑿井世之說兵者無稽信口
或爲危詞嚇人或爲強辯以欺人或爲

甘言以悅人如浮言爲利害所關典籍
經書不知何物博文約禮勵忠節武文
臣能以八股張六軍勇氣武臣能以一
劍治萬里長城斯文武之一也本標綱
目反爲迂遠庸談而不取則千言萬語
之間殆猶和璧之在璞乎其至久湮豈
過焉者石之而弗鑒乎斯文武之道敢
不欽祗者說者之斁蝕也或師巫之屬
厭魅之族牽合支吾拾人唾餘爲扇惑
民俗主將不防微杜漸遂致滋蔓難圖

而為國戕賊今聖哲所以求康保天下
者不外乎此豈我童人賴之天下賴之
矣謹叙天和四閼逢困敦之歳大簇下
旬雪任子湯淺得之洛澨寓舍書

▲甲乃次第

一甲仕繼ゟ六十歳ゟ三拾歳ゟ四拾歳ゟ惣
ゟ事さび重をとりの是ゟあけ玉ハまん産ゟさ
きくを結のもの

一海ひさしゟ見あけのもとをみてしまひさしの間
しやもりともふきゝかへしをこ無つり空歩つのかゝ見
とりまひさしもゝ結を後さひまゝて今紙の雲
かゝいまつまるものざうがんゟ或ハ西ハしまゝ中ゟかゝ
ざうがん入ゟ事ゟ但もゝろ一文字頭ゟ目根野の紙
あ結ゟ六下りをかゝゝ下一段まひしぬい付ゟゟ又ま
皮にて包まつれゟ

一結裏さゝし布ゟ二重さしまんそめゟ後ゟ海ゟ

かさそあり志のびのをとハ三所四所又五所付る物数
一 寄りあるべし
兜して甲ハ三枚五枚ともいふなり兜鉢ハ六十弐
間弐二間四十八間のかハなし さん代百弐拾々ん
まで有之候 一 鉢ハ好次第又ハ六間七間八間十二間も
有之の内鉢ハ大中小有之又ハ大平鉢ハ大中小有之
星ハ大中小有之を内窟星有之角星いが星有り
其星有之或ハ兜鉢ハ星むりかな星ましるしつけ
ハ星をはは星中又星ましりて有之を星大星
と云又押付と中ハ子とせんなる是ハ小さじ
又ハそれまでの張にてあげまきの是を如鎧付
とも亦下付とも似かたの張とも云二方白星兜

の甲といふ室の八まん座の下よりお張よ有るべし是
らく今紹介して八方白となと張よ名からこれを二
方白といふお張は右よりを四方白といふて
こその沙汰といふ八まん座といふは
有をと上玉といふ大かたさまをしを平て名んといふなり
兜して八まんざハ後軍神の住家なりと云
一 古代ハ額縁の外ハなし
一 かぶとひさしのつけまはし初ハなる間に付ゆべき
ひさしのねりかうてある或ハ肉のしもねり又ハ付まひ
さしとある又ハてのさひを用あるべし
一 てのさひ又ハ面ちしまにざうがんをして家の紋をつけ
又ハ金の糸しへちるをねりなるなる時ハなるてあることはぬり

りんをへらしたる或ハ金かくしをとりてそりかへしたる
なりまたハ金紙をとりてかさねかけたる又ハ草花て
霰(あられ)梅鉢(うめばち)なとをつけたる無地してうらハ白ぬり金紙
又ハ金びやくだん紙びやくだん又ハ襷(たすき)段或ハおり細
とりてたりもする

一 間庇(まびさし)ハ日よけの為なれバ端なるを又ハまゆ庇とつけたるあり
或ハ中ひさしむかしそのひさしのびうと三寸のびうとも云
むかしまひさしに衝ちらい立付たるを又ハ立物のさん
かけ折たるを見るべし

一 しころ緒のすそを志ころ緒を衛平志ころをまつたか
つの緒なとにの古代なハ此通りにかけてかさね
こしたるハ一筋二筋つけまてまた各云

板数さしまわりさうすり形しらのひさし入ハたらお
おりく古代とかり七寸き定まり日根肱腋なとにあり
しころの一ツ板を緒つけとに下ちられの板をとひ
しりことにうしころのぬりハ黒ぬりあかうるしのく
たまた又ハ洗さびこを条おりし志ころ外おもてびし
てうさひ又ハ金紙ぎんびん入たるを総ならハ金紙

まぬりてうちしたるを又ハまき絵かざりたるを
一 菱板(ひしいた)ハしかくの条をとりて二段三段ひしぬへ
きたるをきた又ハ一通りよべうとおしたるを切り
一 古代ハ緒つけの板よりひし板また夜光の古よ
りあふさげくしりたる中古ハ緒つけの板
なたよたりとふさげくし志てるをのせし

あきさへしかつかし大小あり或ハちつくのかすり黒
黒あと又花ゑさまつくりんしりたちまたこハふきさう
へしまいろくのめぬきさりんをてうあり紙若
只枚折付の板海の間みくよふ道を用ゐるなり
一想して海ハけひきこ又ハとうけ又ハらうおとし
或ハけさんしさうろ物を紀よるへし
一想ぐり如りちつくのうるつくひし板一枚を裏
表よりつみまりしうろ或ハ居りまわりたりをく
ろかるしさうぶる御めんかる表るなとそへり
ちりてうもあと黒とおのこにしるへし
一甲像を代様にこれありといへも古代中古より
自来かなりハ古小しるべし

一頭像　あとだ像　作像　又ハ古和泉作像　紙
青の作像よりかなりあと　なし打大小　ちうたい大小
しい像　桃像　角さ紀　なまれ尾大小　庵冠
熊坂頭巾　冨士山　一谷　唐人笠　鑠紀
母衣墨絹ちく　志紀　向先紀　御まさ　新娘紙
綿帽子色　桂おこ　香胃　十王紀　末切紀
尉紀　仁王紀　りゑ紀　つきうの　かしし像
如り甲　ちくこ　疊甲　あと
を代日根肥ハりうけ像　曹黒　多し　あと増強
あよしるべし
▲　書塗の法牙
一甲の塗　糸海　きてこと具足お雑しる

或ハ人々のおのゝよ語合し

一 悪濃 日ろいろ　朱濃 うるゝ朱濃　黄濃 黄濃

さびた 日さび　金白檀 銀白檀　熟金

熟銀　いぢく　大ぐし紀　小さし紀

淡き濃　ぼし濃 猪椰子濃　二稿濃

敬彰濃　黄濃濃 ちゝみ

一 秩さび地 紀　秩さびたる　金銀の象眼入るゝ

一 筋に金筋　銀筋　又金銀　四歩一

赤銅　めつ紀ゆくさん筋　或ハ筋の方に志すされ

筋獨まれに雲かさひかさ入るゝもあ

右の志あく好ふよりへし

そ積武具ハ和見んかゝるゝ事常後

右右働行由なれとりて要をも

まれといへども　其和多し寄ふ

右今世儀を集て百ろこり

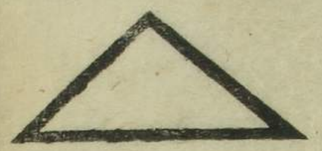
なしへゝの好ゝ物ぞ紀の思詰り

ふるに我あつめて何ふ至てりて

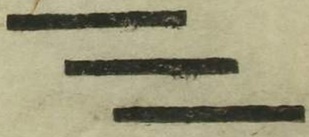
徳用乃為ようとすさしめんとすり

八陣之圖

鋒矢



魚鱗

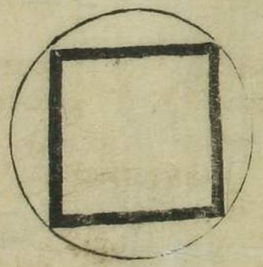


雁行

鶴翼

函矢

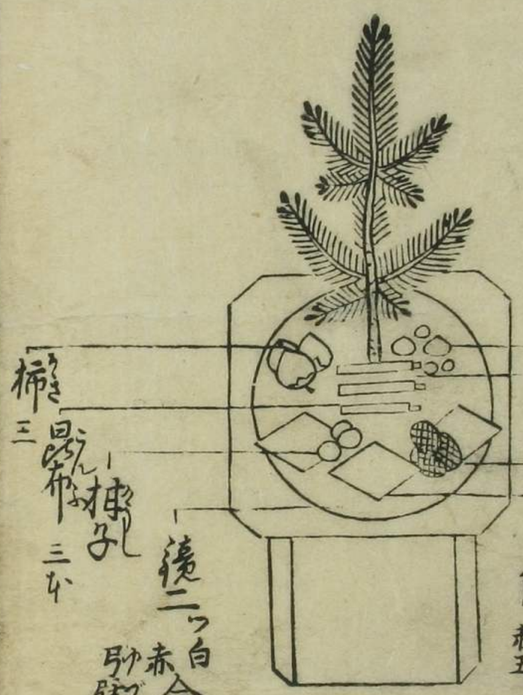
虎翰



方向

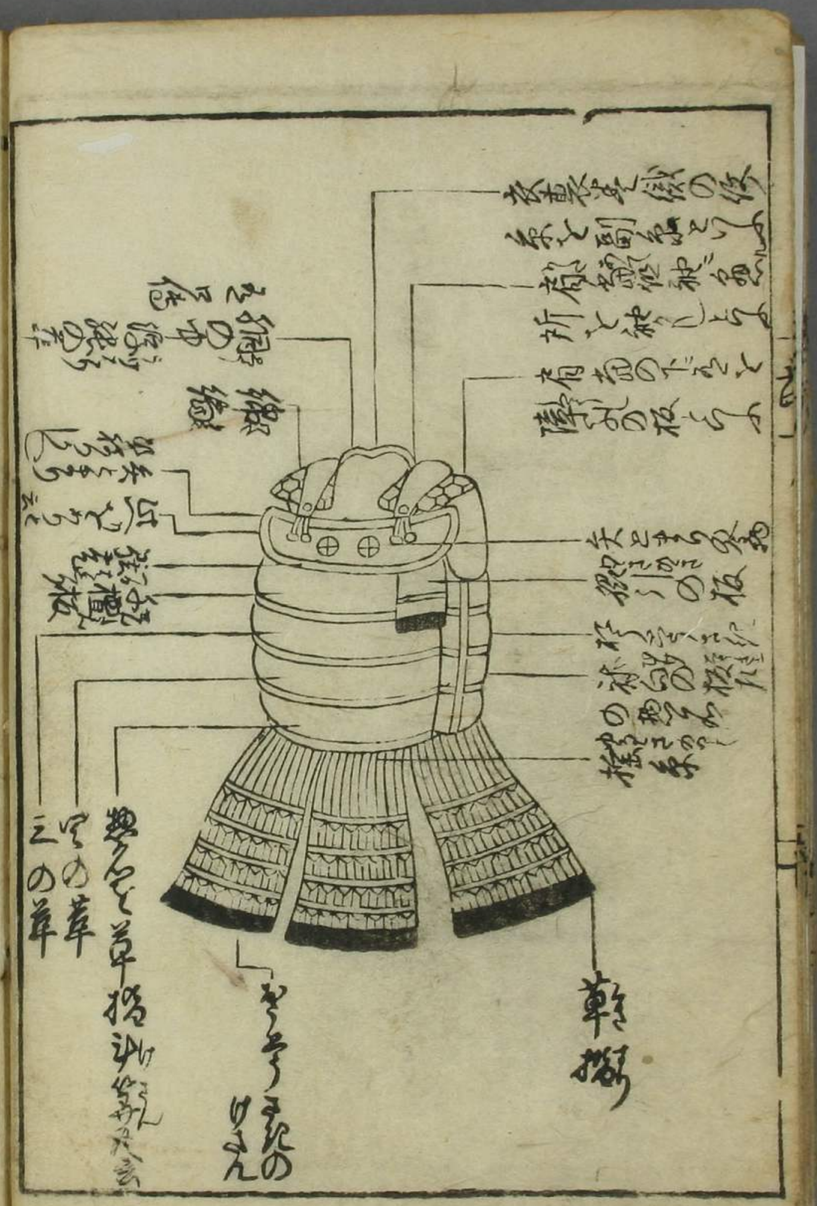
長蛇

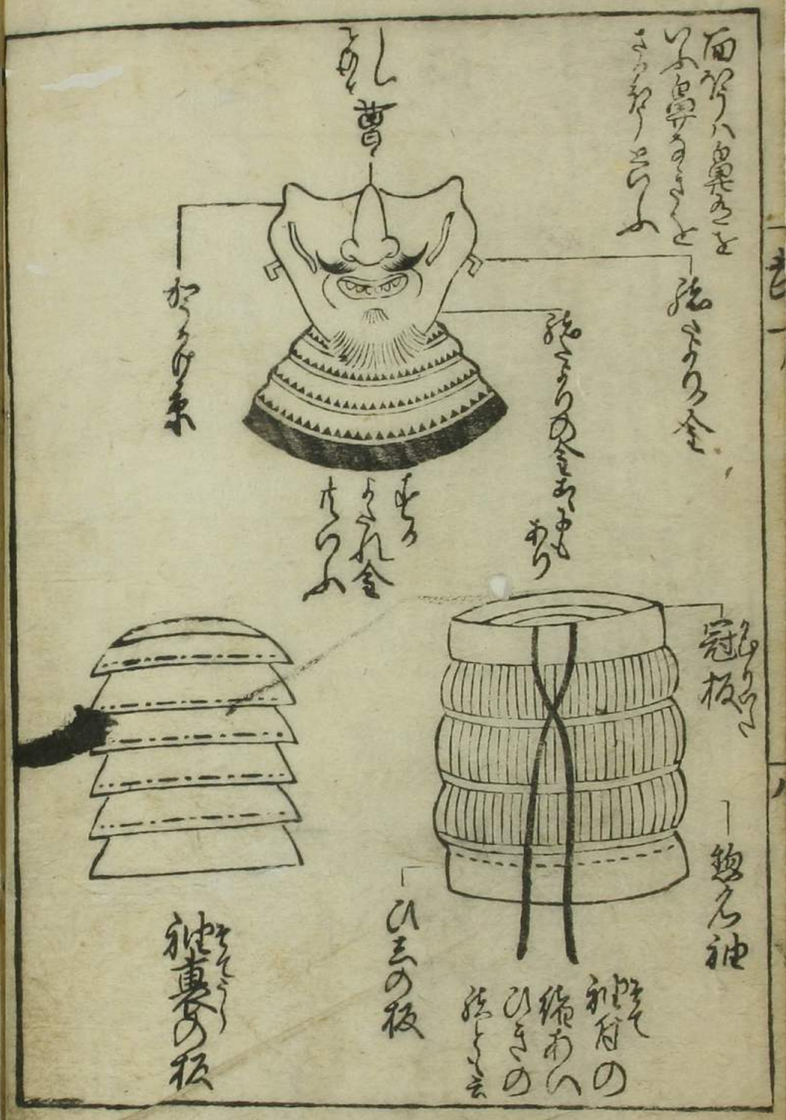
松三重枝付根引也
志ノ外家ニ吉例任也



栗五
鯛の汁二本
俵物
菱餅 白五 赤五
花平十二 白六 赤六
柿三
昆布 三本
鏡二ツ 白 赤 合テ二ツ
弓弦葉解下数之

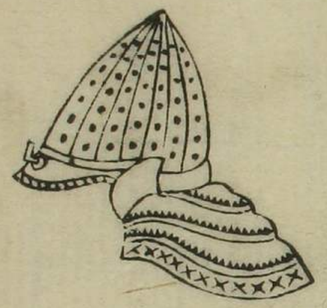
息戈
金具庄を
あけ玉とらふ
筋金
天適
目
松
眉庙
吹ひし
沖板
見上
内甲



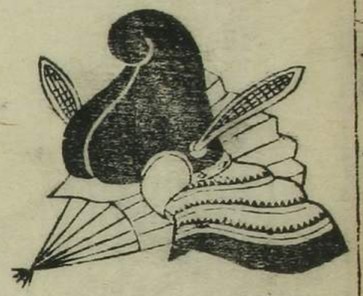


沈像

桙像



冠（かぶり）　茅（ちがや）



かぶりはどしあたて袖
りぢきぬつゝにたてこハ
ぬりめぐりなりとりくろ
めり手付あつしまひさ
しひしふ谷箱を

掛（かぶり）　あ（いぶ）

あぎりはどしたづのおとし
あわさあを箱にてまりしめ
を付て熱さびをかまぬり
か

化（ばく）　像（ぞう）

さくなり拾成箱平てへんけん
ハめりきたすぐれ箱おしま
きハいろまを雲がたたつの
おとし熱地黒ぬりたすぐれ
ぢり金にたゝるまとまびざし
このゝあるへし

拙（ばい）　像（ぞう）

たいなり四角の箱黒くかきて
別たすぐれ箱四角付てたまれ
おくく座星打て獨巻にたゝ
びてたりのごとし平てなん
なり熱ハさびをは四方とも

蟇（まさ）　鵝（れう）

まされうの甲鵝のうらてなん立物ゑのごとし胴とおしあ足はまひさしおさへさせて後よりお尾といたし則をんとうしろにまで甲のかわかうづのごとくうへがそにしててんくまきめちくとみせて下へ作こにませ總さびたさすり

酉（わと）　瓜（ぐ）

わぐさすりの甲拾貳月大箱月詞らくとして座星付平てなんこと物ハ忍のごとしゆうれうたりぬきまめてまびさしとつくこ足そてハてなんおしうこ足まてらうしろとつくませて尾ハうしろの神のつけのおうりまて其こちらむる鵝のいろあのこにまるんしし

蛤（ぐり）　蛤（ぐり）

いたらがいの甲うしろあて合せ向あてなんくりとかいの形そとみせて金ゆ但せいこのかゑ忍ぬきしまひさしふきかへし黒ぬり

ちゑつりづのごとしむかいより横ゑ蛤ことなるりまびさしと付おし則海藻のあたてもの鵝しあり

類編ニ云ク徽宗ノ時東防禦賣蛤大賜ヲ金帛ヲ賣蛤人語テ曰ク自リ少時従ス軍ニ見テ主師ニ有リ此力ニ剽徂ヲ以テ縦ヲ生ス耳ノミ

二王頭（にわうらう）

にはう頭にゆひ付てさし
かきわけぬあるはくるりかや
ゆいぎんか勢地黒ぬりま
ひさしふきかへし同

九頭巾（まちづきん）

九づきんひごみさひたこう
又ハ黒ぬりかまひさし上おさ
さく出ステ立物あさわらぬや
うなり

西瓜（わくだ）

あそこなり但し筋なしらそこと
おそくかまくおきこみ八まん
座をあらしまいなづまくも
ぐこかとりざうがん但し
ふきとも八角にして勢今さび
みこなりおの立物大小おのこ
にまるへし

角先（つのさき）

角先の甲ながみしかこのこ
まるべしまぬりまたハぬく
たんぬるのハさびたこ志ころハ
眼根の志と訴なり

蝶頭

てうちらの甲但し兩羽をて
勢みしてまたこしつけたるへき
か勢地黒ぬり毛羽さひ色
忍やうせいしのうまハ今に
してかてをしるへし毛羽
いたぬ色をよし

茄子

なすびの甲て上へして勢
地ぶぬりかし小谷を付
て或ハうるしもふさ色
まひざし同ししたるひ
しぬいけり

辛螺尾

かし志りの甲付まひさし後
みにぎりいたしともいふぬり
あのこによるへし黒ぬり又
さびをなりうしろへなひ
きふさきさきへつり合ひ
志口傳あこ

螺尾

かし志りの甲但しまび
さし付わろしひりなし
小谷を付てぬり同し前
みふさりいたし甲前み
けり鉢つけの板ひやうあ

百合草

ゆりの甲但し[illegible]つき
石めおて[illegible]まひき
しふさくし[illegible]ゆ
[illegible]

蟇目

ひさめの甲[illegible]
てひさめのあハ[illegible]
奇の数や[illegible]
め[illegible]
のひさめ[illegible]
より[illegible]
[illegible]

向鉄

ひらふ鉄の甲づのどし下おと
がいをまひさしにしてがんめ
さらざんか[illegible]
て[illegible]
さびさ[illegible]
[illegible]
[illegible]
但[illegible]
めとうつすり

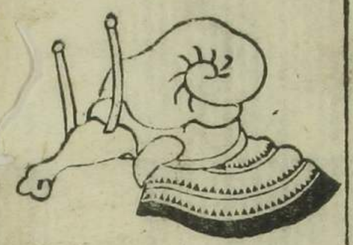
頭像

[illegible]
さひさ[illegible]
びさしふさくし[illegible]頭
ふ合してすじつけて

栄螺

さいの角貌の是まひさし
なし付おろしぬり熱地
さびさ角せいたり角のさ貌
ざんやんかし金さしぐう
さて物おのゝにまろへし

鍋牛



金ざうの甲則うらまひ
さしにりちいてづのごとく
あ角と立ものの一方なく
一方ハみじかく角ばりそひ
をして他にまひさしの和
ざんのまりそろし

折烏帽子

あり愛ずしの甲鉢まさ
うしろにしてゆりて
ねしあるもむまびさけ
てまびさしつけて物体
くろぬり

烏帽子

枚人甲

雲頭 甚

とりハい

とりハいの二字なりうしなひきよへうきさはへつり合あしくあに口偏をへづのごとくゑりまへよくらまでたてものをこうろへなり

鶴尾

鶴のとの甲則づのごとしなこそ袖にひれをして鶴代さひをこさしうろこがこのあいこにざんをもりこみてひれのもしにもこさんをまいれあり

田衣縮

ほろさぬの甲なこうろ則なたて袖をさぬのりしをいさしたるとくにうかうづのごとく鶴代ろぬりあるいハうるこしもびやくたんなり

実貝

綿帽子

けさがしつきづのごとし但シ
けさがし銀かむかふかそゆひ
あたしを制し熱甲ハ黒
ぬりまびさしふきかへし
くろぬりなり

熊坂頭巾

くまさかづきん鉢まきを付
むすひまむかふにあり上遠
熱地黒ぬりにしてたちま
さハ金或ハさひをこのこに
よるへしあるつりあひ
に倣たまひさし上より
さしあ給し

柿像

うさのなり甲ハ今のかさ
谷つけてあ立物うさのそ
金せへ赤門か甲ハぬりしも
或ハ黒ぬりまびさしつ
のごとし

黒頭

黒頭の甲ハ白さそ物れうの
みつのを立て則内しぬり
あのこみして但シ鶴ぶくのと
書ふしらて角んとそ物紙ド
をさしにして甲にみされ
うるをうぶまひさつ上のごとし

寶珠

あかいはりしゆの甲づのごとし無垢びやくどんなるをもつこと或ハ縁り物金おさえハ来うこまのをしハ黒ぬりまひさしまぬり金のいはけあり

紙巻

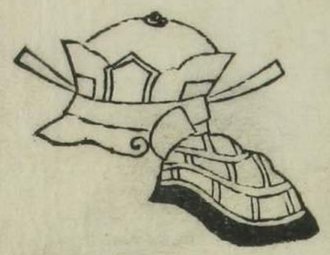
いちまさの甲則いちまさハどんなり無垢黒ぬりまびさしふさえハしまぬり紙まきまへまてひまびあり

桃像

りくりのすぢ甲りゆきもこまへし花びこなり黒ぬくそふてまいたる物のとりまでに無垢黒ぬりまちつけて或ハるくぬりたるなり

色おしかし

ましうちあかしの甲大中小なりにかりおかしてしごんの紙まきを物をあり無垢黒ぬりまびさし紙まきしまへしハしまくなし

兒頭	十王頭	鳥像	忍び
			
つごがしらひくすりゆひ浪紙うしろかそむすび熱黒ぬりとまふ長わりまひぐしつ頭のことく	きうはうがしらの甲則後立袖けんがて熱地さひいろまひさしあさがしまて組しつけあわしあり	鳥なり甲熱地黒ぬりますこめつきかまひさしつ行のことくがんハ丸べう大かし或ハ金ふんあのこれなる通しくちがしのうやくん切あり	忍びし

喝食

うわしさ大かありそん切
かえ付まひさしねり乾
黒くうえのとくあさして

唐輪

かつらの甲但しかつがい
うしろにかくにさしてれ
さしかんざしい食かまさ
いかりさうなりあるひ
くらのひげねりさあか

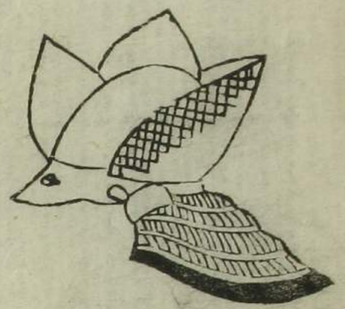
富士山

ふし山の甲つけあるし
まひさしなり熱地黒
ねり甲平ぬ付あるし

三栗

うわしくりの甲則立の左
右ハくりの平ふ毎ひ
熱さびかくか又ハうるみし
或ハくりいろか稀まさ
めねりまひさし付まひさ

酸（ねつ）　擣（つき）



ねつつきの甲ニ付立物ねつつきハしゆかのうまハせいたつかんあて衣をとけ内しゆこゆるゝかけこづしあのこじてうしろあも立るかぐに則内のねつつきハ甲なり丸ゆ行りつのごとし

箏（ぐご）　像（ぞう）

ぐこの甲ぐこに糸とまきおきをやうなりづのとく但し紙かしてぐこと
まひさしハ黒ぬり

尉（せう）　頸（うら）

せうしらの甲ニ尾馬の尾うつて打りまけくりとゆひハぎんかこう但しまひさしつけ御

玲（れい）　像（ぞう）

れいなりの甲ニ忍びのとしつけて居んなりまつこ金るこつのどくあらかしうけで熱地金色箔おきあけまひさしハ付まひさしそろねりなり利

壺（つぼ）　尻（しり）

つぼ　しり　の甲八ヶ所のもぢの名
[illegible]つて大きさ[illegible]里　打てもし
じのさもくみ雲[illegible]こうら
[illegible]雲[illegible]の上
[illegible]但し[illegible]ぶ[illegible]
小里[illegible]りぬりはさひいろ
すり

鯖（さば）　魚（かこ）

[illegible]ちかこの甲頭はまひさ
しのこして何も[illegible]
ごとくあひれを立物[illegible]
[illegible]せてうらとひれひけ
つけて[illegible]さひ[illegible]

絵（すまぢ）　尾（と）

すまぢ　尾乃甲ひれ立
ものの[illegible]ぬりまひさ
しつけまひさし

漆（しち）　椀（えん）

[illegible]こさ乃甲[illegible]つけて[illegible]
すり

帽子

かしらひくにけしの甲なり
づのごとし惣地はあかりみ
のくち甲にはりつけぬり
こあり

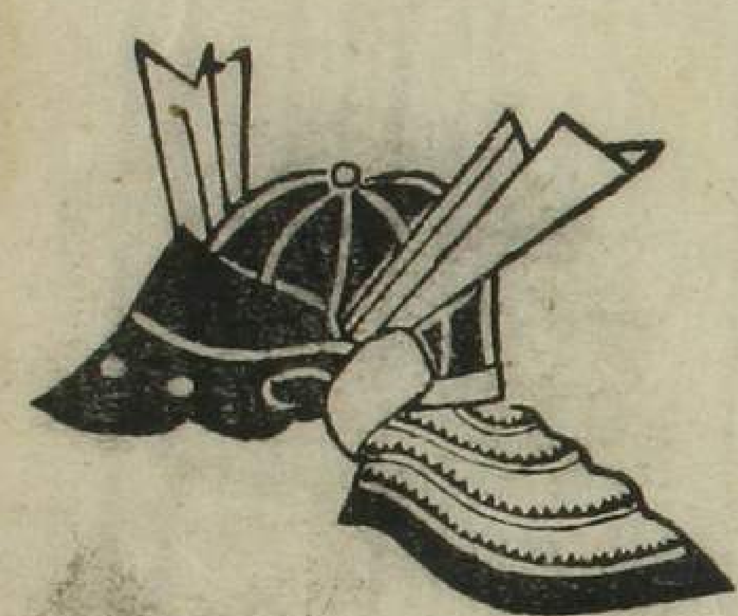
桃形

りうかうじんの甲十六
ゐの筋よし黒く筋高く
して惣地さびぬりしゆんぜん
しゆまひさしふきかへし
しろわり

海老尾

えびをりの甲づのごとく絵
てあり惣うるし白
り付まひさし

唐帽子



下地を甲に黒うるしにてぬりそ
惣まへに筋てんとふきかへしを
ありてはりともに前後かぶと
ごとく毛付てふきかへしともつ
みまに金地にて縫のかし毛の
とくさ縫の上にも黒うるしにて
かそかくのごとくひさしをまちと
ぬりめいそゑがしの甲なり

釈迦頭

しやか頭甲はわりあまたに
しよ花さほりのごとき地はだく
みしてうきくし花びらのた
んまひさし黒ぬり或ハ地
地さびをうきくし所
ぬりあかによるべし

馬蜂

はちの甲則あたま絶ニ羽と
して但しはらのみそうり
つまをおなくそうて地さび
いろまびさしのうへみせ
りちとおもとつくるさ

蚫像

あはびの甲むりなみてあり
あはびのからくにみえてかな
ごつ付て但し付まびさしかけり
此後世にいこりり
楠正成甲是より蚫らこの事ニ
すぐれこのとしつとめにちりの
原蔵右衛門肉刻肉を付て
今京大佛造営ニ住ひて有ける

獅子

さてのしらみあたま獅子肉
しゆ劇毛のこみして地黒
ぬりこ付まびさしたのご
あさ今まかけつのさけと
うえてひ毛りあけてまた
うり但し上ニ前立の付を
うふえ見きよのなり

角頭巾

もみづさん惣さびいろまた黒ぬりかさしたころれいろれ惣ふきかへし付て古代ハ志ころのたどれ惣ふきかへし付たりもあるこいふ可考也

巻縮

まさきぬの甲本に前方きねのうしろまてまかせて惣地白且まびさしふこさかへし黒ぬりうしろまてこさねのまきとめ内ふしのといれて

衣子

けしの甲て屋ん立地白白後ハ黒ぬりまかてへんきく庭ありき惣そとの前ゑろく御さひいろ

把薬

たりはりの甲なもめ金惣地黒ぬりまひさしふこさかへし同し

生海鼠

なまこの甲つのかしの爲
あらくと小星こうりへし
牠化さひいろ付まひさし
星ぬり星めつきあるい
ハくろぬりか

白兎

じうふうさ紀の甲みく立
牠牠化星ぬりまひさし
つのごとしふさかへし丸
くうさ紀のひゞ爲くろく
つかくしして

白鹿

じうふ志の甲則角みく四ッ
して牠但しつのハ牠金か
志の口をゆひさしのうへに
して牠化うるこしもた
るのさ紀くろく海すこの内
星くしてゑ事あるうを

蛸蜋

ゑきりの甲りしらと爲り爲
をとりさて牠網ハ甲ふして
ばのことく牠さひいろか付
ゆびさしぞうりうりしら
まるとちくこのこみよりも

蟬

唐冠

仮面

象鼻

雞頭（ゆかり）

けいとうの甲但しからがしまびさしのこまでして惣紙黒ありなりあるのやくこうことあるを韓詩外傳云かんたりというくハ丈に足にかけとちくハ武なりノ敵在おに闘ハ勇なり見ハ食相呼ハ化に守ハ不失時信ニ云云

犀角（さいの つの）

さいの角の甲まことうしろふして惣紙さひ色まびさしふきかへしくろぬりなるへし或ハ惣金のもりノもかし

波頭（うらゝ）

なまうしらの甲忍なうまたしなまうしらふさらつけて

裏菓（うらゝ）

うらきくの甲忍のごとりそれハ金めつきしてしろめ打て付まひさし惣地黒ぬり或ハきくの葉ぎんのもりもしゞ又ハ銀のやもりめこあのこにしるへし

松毬

松ぶりの甲ばのごとし悪
やうあり無さびたるまひ
さしふさかへしゝ悪ぬり
さゝし悪やうは今ふんこ

唐笠

そうぶんかさ八ぶんの筋乃は
産星の位しまびざし付
おれし無比悪ぬり産星ぬり
き筋立てぬりこめ或はこそ
みしてそこに今ふんへさうを
よし長き甲はつり合あり
口傳あり

唐人笠

そうぶんかさ筋あり無悪今
りあぶうとつけ内まひさ
し悪のごとくかぐすこと

渦巻

うとまきの甲又れまき
まさ雲づまれともゆゑ無
比悪ぬり

章魚（たこ）

たこ乃甲趣張り刑さえれ足
おの立抱みして

末魚（りくぎよ）

りくぎよの甲趣しゆうと
のりしらじかいあいあからむ
とくるへさろ不洋のごとくふさ
ろへしまびさしまぬり

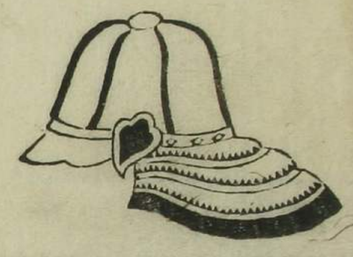
寶螺（やつら）

やつらの貝甲ふさうへし丸
くまびさし乃上ゆ貝乃
ふさ口向みして趣北う
るとしゆ至つう今ふんみ
て

紫筍（しゆん）

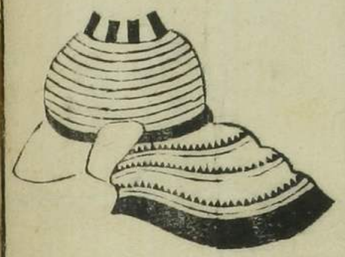
竹の子甲趣さひ乃ちゆ
筍の付まびさしまぬり
ゆり

真瓜



ふりの甲て為ん十二月篇を
花ひこのふきうへし付ま
ひさし地地黒ぬりあして
篇全ふん或ハ全ふんすふ
篇ばかりかしのめて

わく糸



簡雙の糸甲ひくの四ちら
黒ぬり糸詰ふん又ハぬりこめ
篇糸め付て付まひさし
すり

山梔

ちりすしの甲篇付て篇を
あらくと一月小四ちを大里
おて地地さひ色ふきうへし
剣ひこて為ん恵ばのとく篇れ
くしのぎ付て

一苔

一苔の甲苔ふくおまみせ
てまひさし付なり

胡桃

くるみの甲十二月篇にしきゑ[illegible]のやうに[illegible]付て其月[illegible]けさん志ころ[illegible]下り[illegible]けひきか

鳥翼

とりの羽乃甲也富羽の絵やうまひさしふさかへしあのゝにしるへし

形

つかかたの甲口張とくれる外かうちロのあらいおりもの[illegible]さひをくとりのすがれ[illegible]まひさしふさかへしさひをすり

恵がし

恵がしすりの甲[illegible]まひさし付あろしふさかへし志ころくろぬりし

又德（ごとく）

ごとく甲組しごとくハ六ろ
ぬりかさびさ付まひさし
ふさかへしさひいろすり

把綿

なぐのわさ乃甲無紙ちら
ちがしてへんすき二尺ん張
金無うありまひさし
ふさかへし黒ぬりすり

雑忠（のうしう）頭（ぬり）

ちんのうしら甲無うるし
しもかみハ無うかしてま
びさし付おりしなりつの
乃ごとくこぶあふあれし

鯖（さべの）尾（とと）

さべのと乃甲ぼのとくぬり
いまのと法男無紙黒ぬりと
ささ無うかへし甲長ハ
つり合わしくんのへし

栢（かや）　楠（くろ）

すんどん甲 總らしやをとりて
色けさりとつみあのさくなる
そうの筋ハ金ゟ銀ゟ四方一ゟ
あて筋ふくまんのさりてゐん
肉ハしゆまひさしまそつゝ
かしふくまんさり但しまひ
さし布ぐくしてまひさしふ
して

頸（と）　巾（きん）

ちさんの巾 總地すじ地まそ
つゝ黒ぬりすりうしらあて
ひさ十二ゟへしまひさし
あさかへし付かすり

小　絡（ゆひ）

小ゆひの甲 但し小ゆひを
うしろ立 物肉しゆ付
金ゆひさし付わろし總
地黒ぬり大きさきあ

絡（ゆひ）　髮（かみ）

ゆひかみの甲 さしりと
ゆひざんがみかつけわろま
ひさしこ黒ぬりまひさし
さひ 色すり

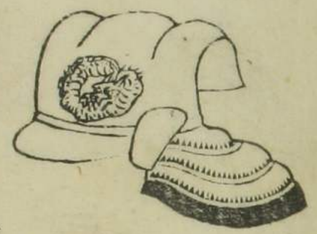
とひハし

とびにの甲ゑのとくにりけさしとるゝにさきをとしにあるなけて熊比黒ぬり付まひさしなり

編笠

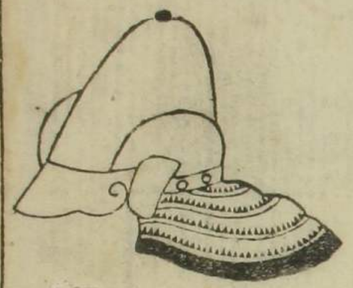
あミうさの甲てへん平へうあ
ぬりと付て熊比黒ぬりあミ
め付てぬりこめ丸ゝふさ
ゑし付まひさしなり

松頭巾



すげづさん向ふあまねうる
まさゑまさづさんのちしハう
しろへすげさせて熊比くろ
ぬりつけまひさしまへに
筋つけて

唐帽子

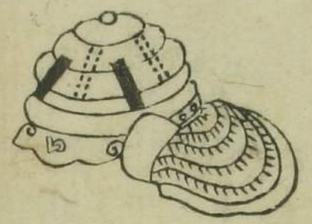


かゝがしの甲ゑのうを付て
こしてへんひさつけてま
ひさし付おろしぞくに
ゐんぞんづさんといふ

帽子

もうさの甲悪うまで海
おもうを付まひさし
熊代黒ぬりけしてく
きゐしして

畳甲



毎み甲三不せん革金せん
ふてとめつ口ハ毎こひさ
あげ三不せんとうくるなり
つ口のごとし甲冒さとり
けのいとうくるまなり

畳甲

毎み甲四ツ開き鉢まさ
不ちやうつかいなりさして
へんみて鉢とめ熊代さひ
うらさざうがんて居れ立
物をぞなしてしふさか
一しきんりさまひさしちや
づいなり

武具訓家圖彙

三

▲頬当之事

一面頬ハ作ニ桂籠 白漆 黒漆 赤漆 錆漆 好次第也 金銀象眼

ひげ入わり

一猿頬 作 翁頬 皺頬 南蛮頬 燕頬 高麗頬

作ニやくらい色々有之 悪面 猿長形 天狗頬 惜摩頬 此外色々作々像

あり 好ミニ依之揃へしハ其定の中ニ随分よろし それ

唐草包 赤革包 鉄黒之意薬 黒塗 金張のよろしき

の頬ハ鉄さびあしく 金張ニ象眼ニ入らるもよし 作頬の

内ニはかうらのへ 赤の金銀箔 種々式ハ黒ぬりをよし つくし 湯有

紅かし作ニ 其ノ完共の縫けのせんさく有り

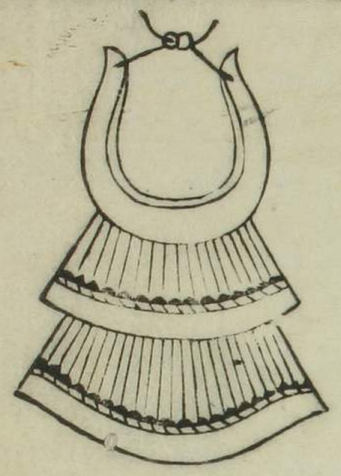
▲淺令（よくれかよ）云ふ

一淺令（よくれかよ）ちを云 すがちを云 掛根ハ海同てまくるゝ下り三下り四下り
ゑ下り六下りをもてあめこ沙身

▲喉輪（のどハ）ことゝ

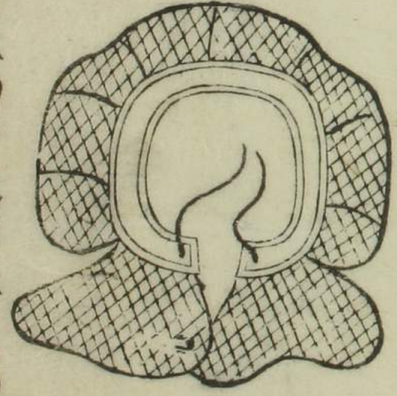
一喉輪 唐菱縫 菱ひまわとち縫根ハ根をもて喉輪黒ゐり下り
家実頭具足 同ゐ

一ちる輪と云ふ黒漆下り熱後ゝ家裏具足ハ縫 物ゝ後ゝて掛ふ
面ぢうを云ふ兎甲ゝ熱後ゝ他 袖の方と熱ゝ根にして家ハ
淺子ゝ天鵝絨ゝて包ふ 内よゝ綿入ゝ肩の辺り兎甲をもて後
熱ふのゝハ熱後ゝ具合望てわるへし



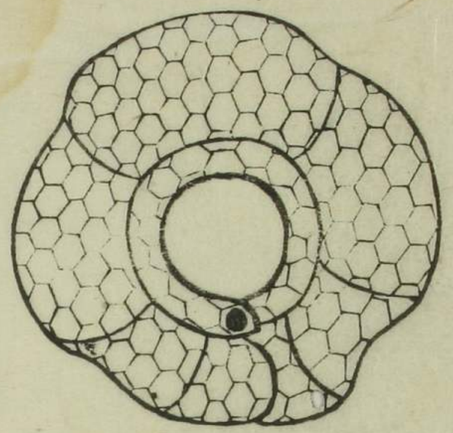
喉輪（のどわ）

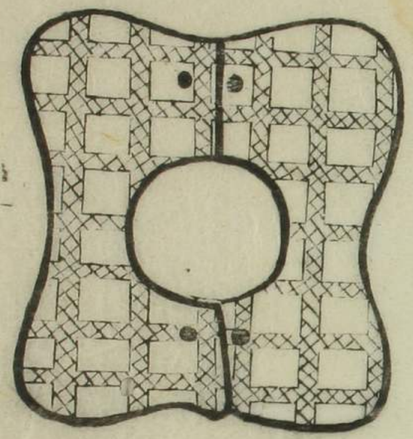
池ノ裏

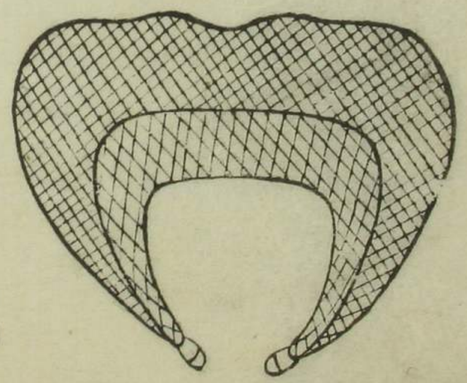


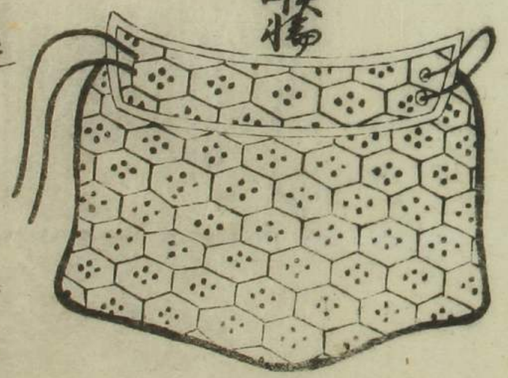
ぐるゝ輪（わ）云

かたにあたる所のどあり鍍（ぬう）
と裏ぬの付熱へまくるまて
しりまへし









▲籠手(ニて)くるす

一 黒漆(ひしゃり)門籠手ハ縦ニ小平板笠平篠ノ丸篠ノ横(ひし)寛(ゆた)鋲令と
入て弓ハ後ニ袖付好ニふるへし

一 筒籠手後或ハ革にて作ニ別或ハ方別にして蜍(てぐ)つがひ
とへてひぢ令と入りしのつてりと用

一 鰲籠手地後梯梅桃の花紋惡し令銀の象眼入冠
の板手甲ニ迄しびつ打各ゆくの象眼と入る和
なり又ハ龍色ニ近代ハ小田籠手郭中籠手当ハ
て作何成地ニ成或ハ紋と入輪寛ひぢがしとなる物
なりし内ニ当来籠手ハ地後ニ成と入笠掛ろ小手

の狐ニ右の小手の縄とまかりしろ衣裏にて合ニ衣裏と
も籠手ニ付ニ有物なり作ニ郭中小手ハかりく付ニ物なり
右行成ニ成りの弓かりし小志ニ物なり

一 弓籠手ハ地後ニ小篠手甲ニ作ニ芥子(けし)付ニ

一 筒のことなり物とみて包也ニ物もあり

一 番鰲小手地後二重(ちゑ)後或銀のまのしらじ又ハさびる黒漆ニ

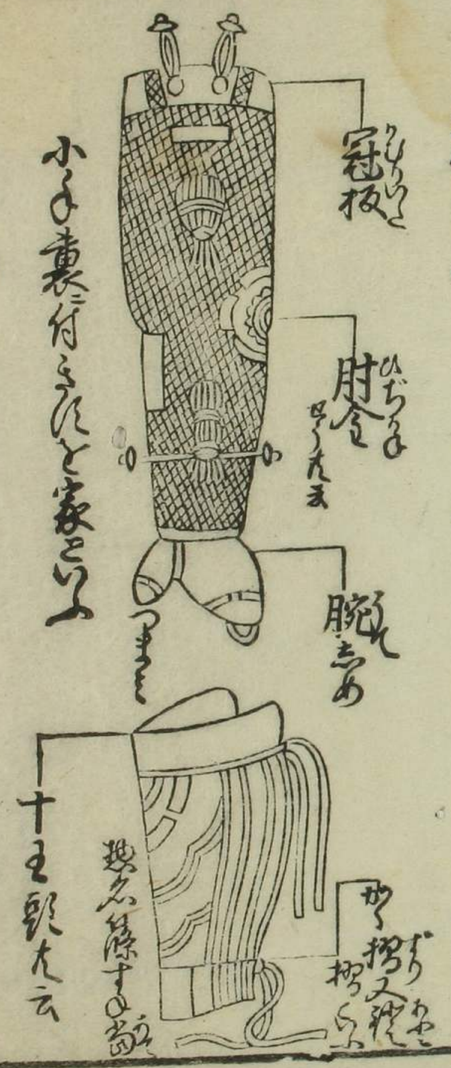
一 地ニ成り小手小篠とおもし作打也ニ又ハ小手ニ好ニ

黒 来 うるみ 物さひる 地令 地銀 又ハ ニ物ニ好

みは月ニし 平甲掛ちつし みして

一 籠手し家裏ニ当ニ令ニ地縄(しゅす)手 紗(さあや)綾 唐織ニ

そこ今此今織色をさらし染或小紋形大中小形を裏にさらし
うさぬか滅黄をさからん染かうはしらるひの物ありん本小
深黄紋の色を物すきしらるへし
一熱色り通り黒加を惹くぶを御笑を名をさらう
あるへし
一かぐりと二ツをかぐりと亦ハ信玄流手を紀留相手のまゝ
行掛らしまえ留亦常のかぐりとよりのくぐへかゝ
らしらか八ツ打か取相ハ手具足に通なるへし



毘舎門小手　當小手

小手裏に付きたるを家といふ

鐔釬と書なり

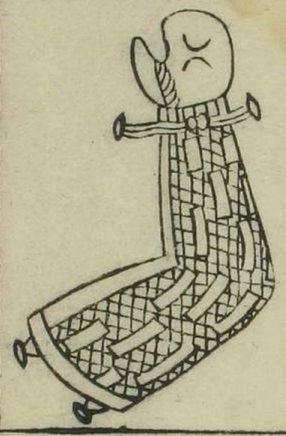
籠手

びしやりんこて即あて志付
袖をとびしやりんあてこふ
袖糸ぬり等あのこ注事

筒籠手

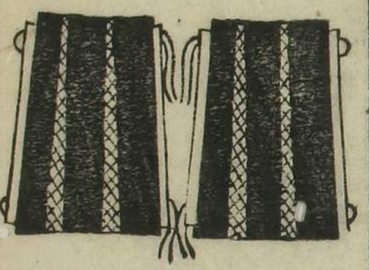
つあてひらうまとりて
中にしれぎをたてる時
のことりとくさりとりて
かなくるつあて

藤籠手



悪小藤籠手のあいさく
くさり

末上籠手



末上籠手平令とりて
藤二なをとにして居さり
をこうらあてひまとびあく
別あてこに面ぬる太刀うけ
あもすりてうしうらぬの
まし令ちりにとる

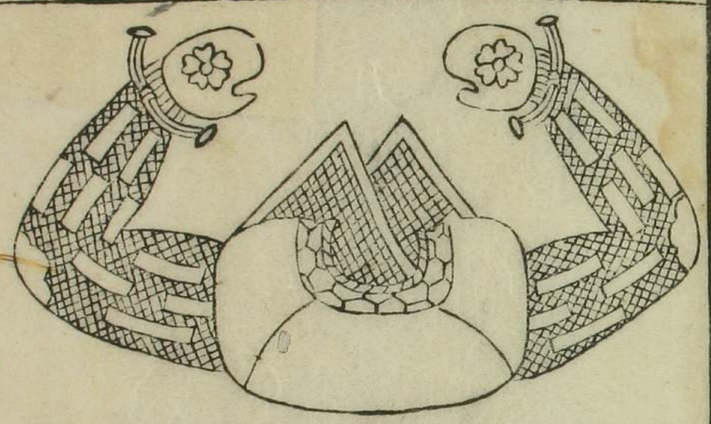
小田籠手

小田こそ惣くさりふくへる後
志のいりぐさ手形にいはりんへ
まへしくさりへさりといふ
いとぬりいうあれしによるへ
し

弓籠手

ゆこそ惣とつくまへし物
を紀によるへしとハからくさ
をこのぬいわるへてさ紀ハけ
付て是をうぶおてこもいふ

菊永籠手

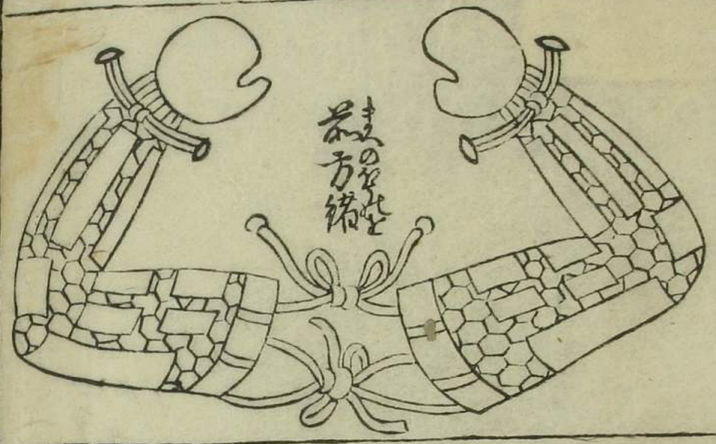


菊永あて　衣裏うこあて
志つけさるといふ

惣鍍縁籠手

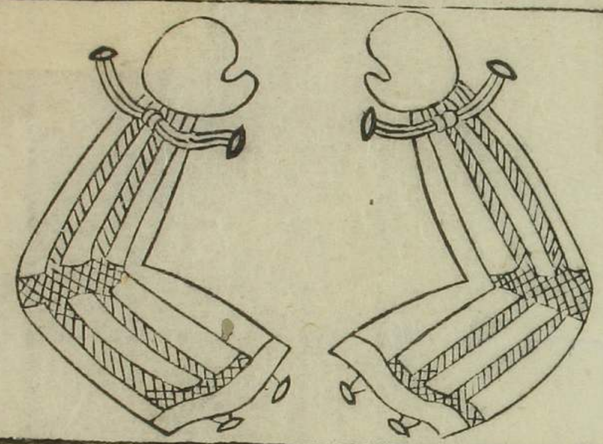
くしあてのあまりまへ
うしろあてあるせ志衣
裏まてを小手に志つけ給
物なり

藤籠手



藤籠手といふ
又おもせあてともいふ
うちのうこれちといふし
緒を付むとしぶまへのうこ
緒を付るひらをよしこ
てをまわせまし紀さあて
それゆへまへのわらに緒を
付る

大藤籠手

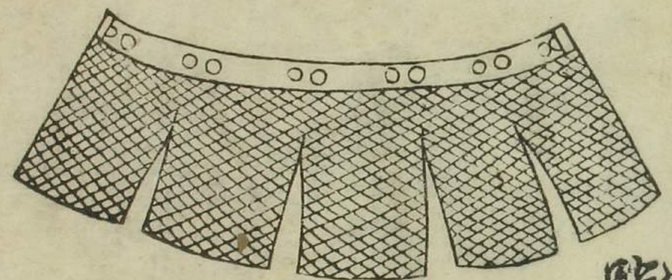


かゝ志のうて大手金をもつて
志の中をかゝる々さり付通り
々さりわりきみしてこゝ志
ひさりのうてに志のあのゝわ
るへしこゝし志のハゞこゝざ
よりハかゞもくなくつゞひろ
きがよし右刀うけのた
めなり

膚着

ぐどうろい内そうり
なりてあすきぶまり
いうろきりかう入
うろつけ惣だり
ろろうまもそそきり
ささけさんのこと
刈立いうろをしけ
ぐだ仕ろあまり

腰巻



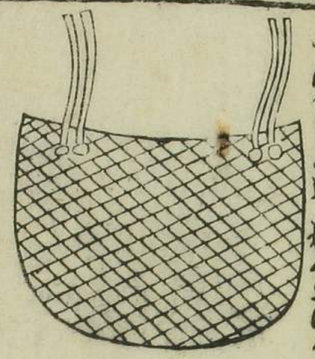
踏込同前

こしまき惣そりかして家ハ
なし惣相ぶだんけかもまり
まと称りまこまとあうら相
かもて付ますまとふきおみのこひ
をあてをむをひ付るすりあれ
こかよりもあるいいちごこさに
を付るよし

一 掘引の事

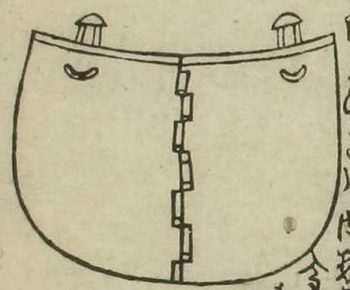
一 掘引の事つりわき引也しわき引ハ掘引とも
一 浴りわき引ハ熱くさり家うら同お
一 迫しわき引ハ常とハ替るすりハ年月をさ事
より大方内よさわかく人らしてこびらしとつこさ
さぬいわるせいとこうらハ小手うらと同お熱也の事
そりはもかたんけすり丸掘引ともいふ
一 空ッ掘引熱くさりこさいさしくさりすり常とは替り
家うら小手同おなし掘引と等ふりはしり下
にさがりあり

掘引



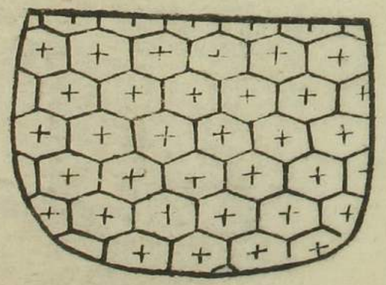
つりわきさ引熱くさり

鉤掘引



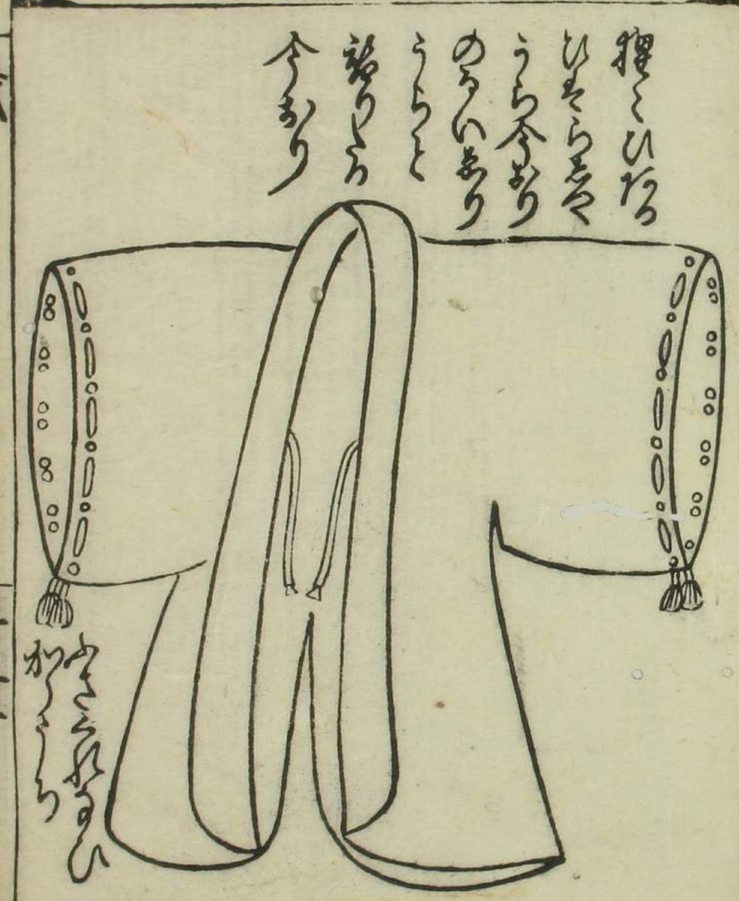
つりわきひきさ引内熱ひ
金乃
ちやつ
づへ

大掘引

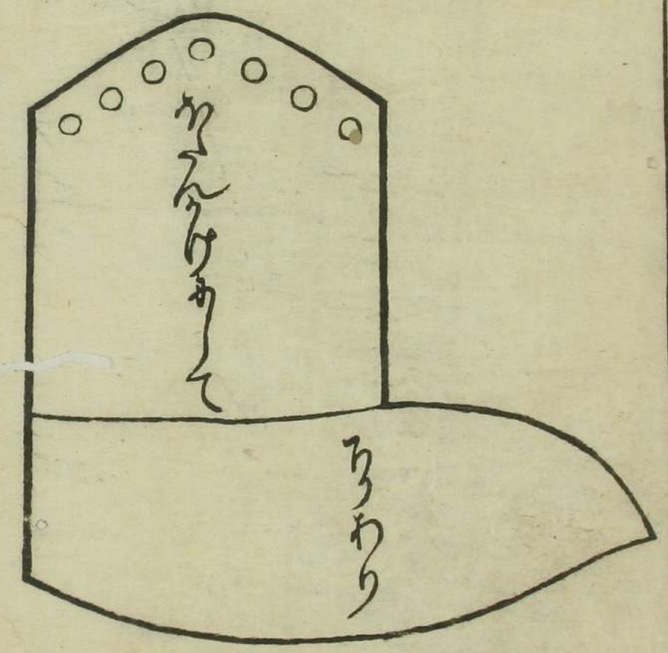


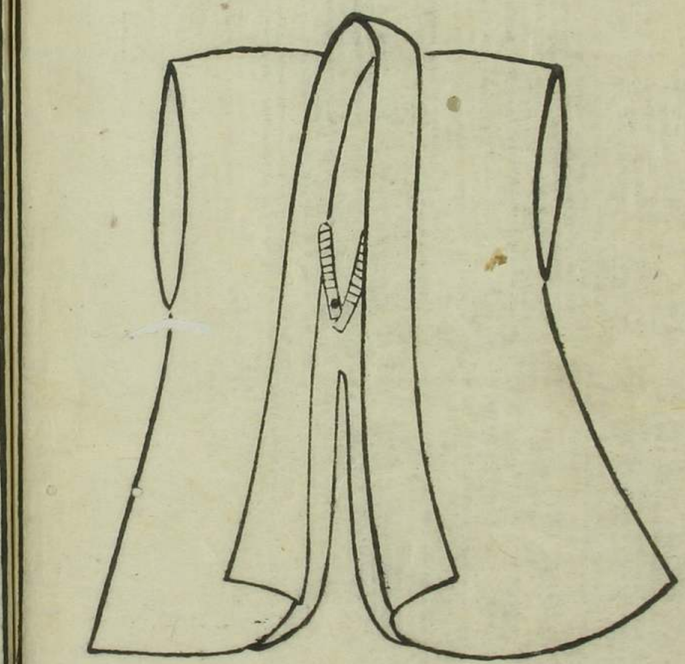
大きさひきさ
いまもそがたんけ
丸きさひきさともいふ

陣羽織


狸くひたる
ひそらまで
うら今おり
のろいあり
うらと
語りとる
今おり
かさんかけかして

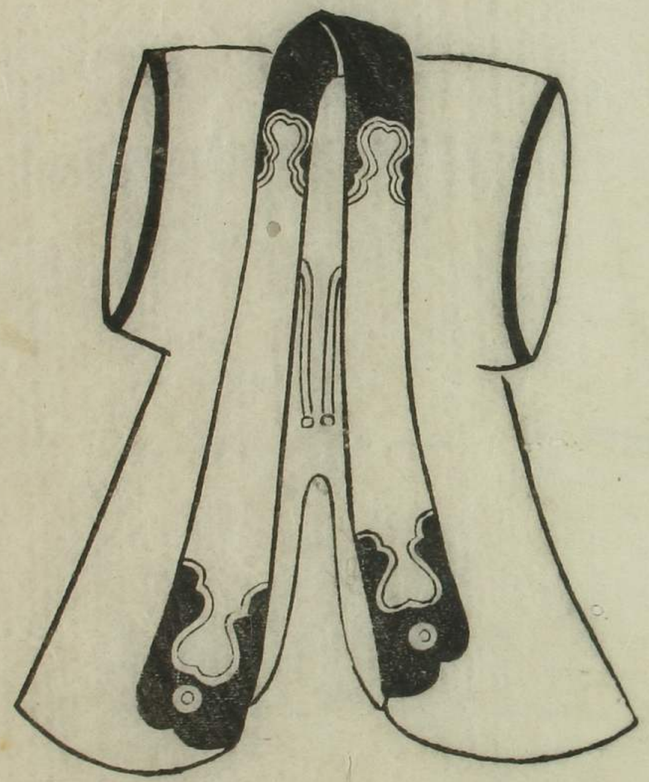
弓脇引

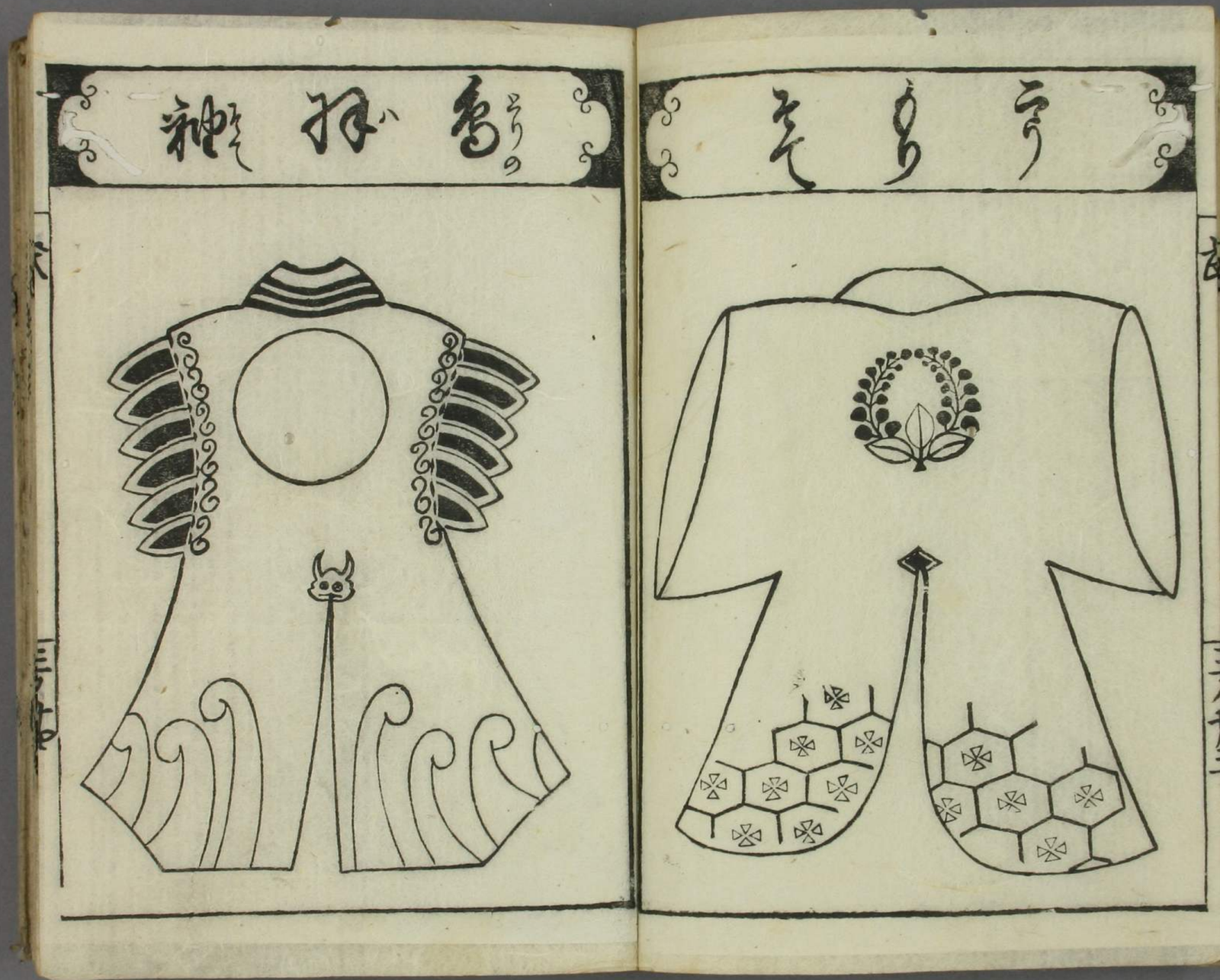

かさんかけかして
ろうわり



神ぎ

神ぎ

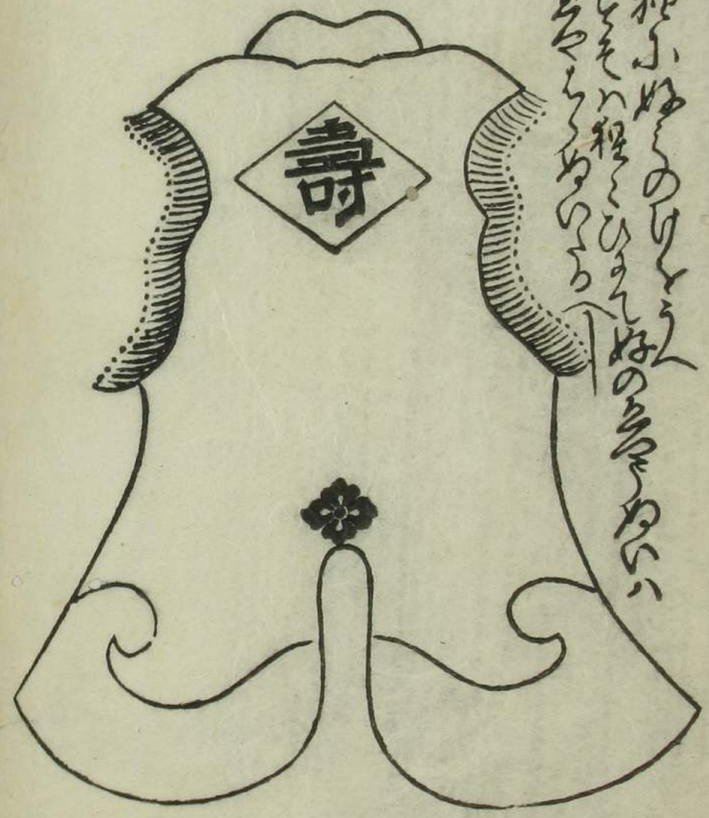




唐子舳
二てうそ
福

神世

神ふぬこのけとうん
もそれ程こひまて好のかきぬいハ
どやちらぬいたら

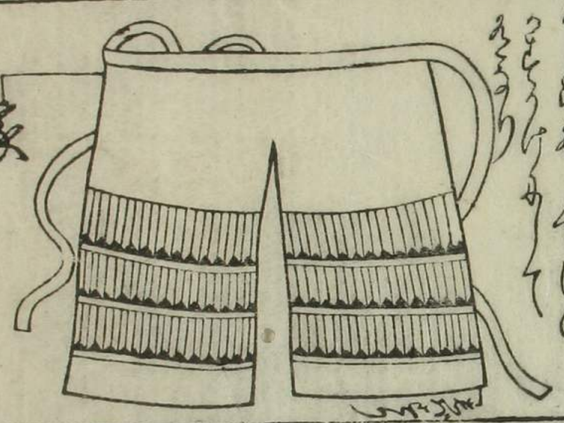


佩楯こしらす

一 伴藤ものこそ[illegible]て三方丸[illegible]の式ハかく藤[illegible]ん[illegible]く[illegible]ひし
[illegible]ぬりもて[illegible]家[illegible]小手同[illegible]
一 板[illegible]小[illegible]或一枚板[illegible]て一[illegible]
[illegible]家[illegible]
[illegible]家裏小[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]家裏[illegible]

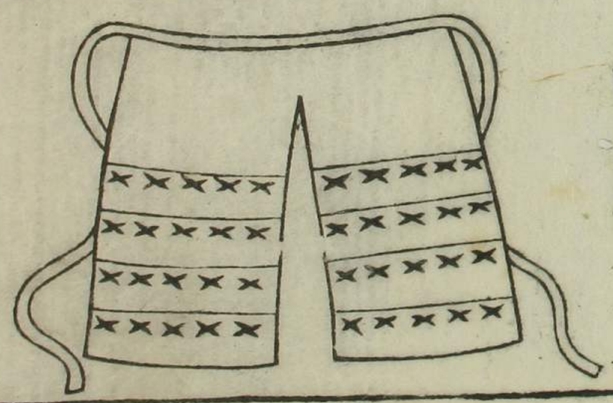
み同し組さまうしらハ物ゞ紀ハ身組をかけまゝらもまゝ
一趣中ゆゑあみ想像なり或ハ小藤ゆゑ笹葉りんへさり
もあゝ見るなりハ形りしまゝしゝろ物なり漆家裏ひ
を漆ホ小手同なるなりまゝこゝろ母のことくまゝて
ゝろをあゝ好ゝ法身見ハ我當世ゆゑみといふ
一さのうゝ ゆゑあゝ想像さのうゝ有ゝ
常なりさのうゝ大がゝ事あのくさらぬりいへ
うら組小手同なるなり
右いつも蔵を具足相座なるへし

威脇楯



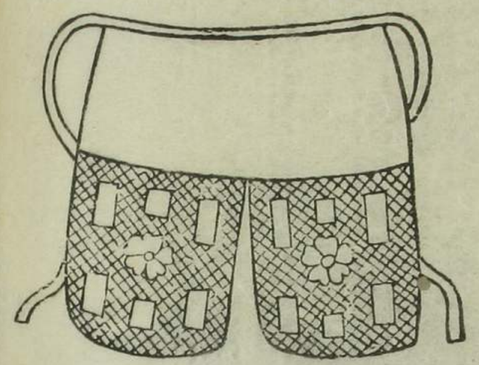
威ハ如さて四下りかゝ下りかゝ
して小さまかゝりんし
りらかしてけひゝ
かゝりけかして
みさりり

脇楯



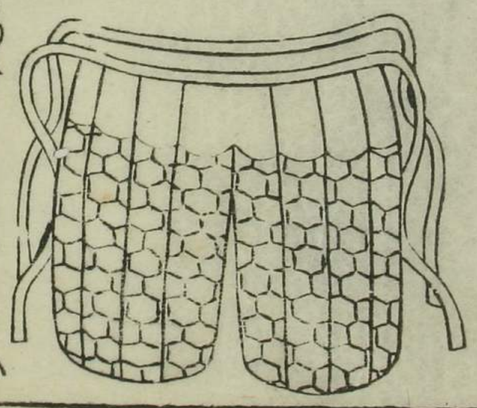
ものさて下り一りんし
りしらかゝちらかして

踏込



[illegible]

奴袴

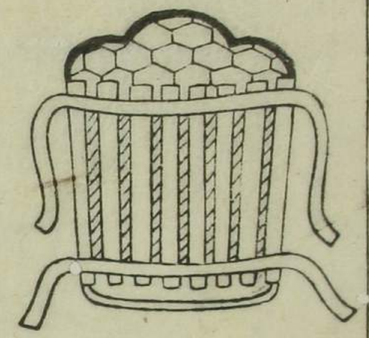


[illegible]

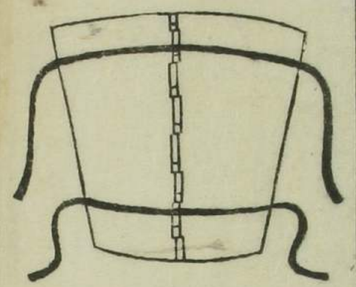
▲ 腸當

一筒[illegible]筒[illegible]て同前[illegible]て十王頭[illegible]と[illegible]
[illegible]
一[illegible]あて平藤或ハ丸藤[illegible]の十王
頭[illegible]ハ十王頭[illegible]或ハ藤七八[illegible]ハ十王頭[illegible]
甲[illegible]
一[illegible]藤七八[illegible]藤の[illegible]
[illegible]
一脚[illegible]あて[illegible]裏[illegible]
[illegible]小藤[illegible]

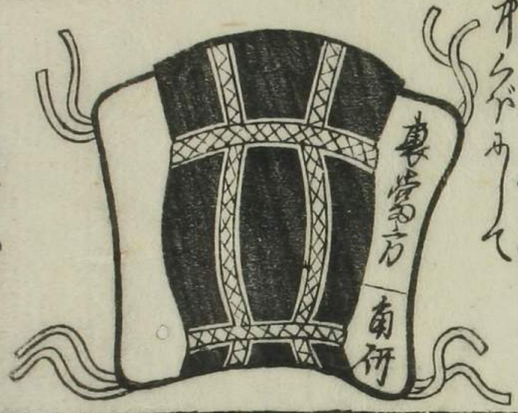
當て脚を

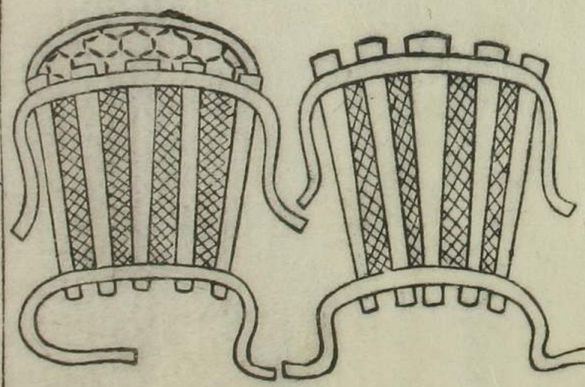


裏を脚て

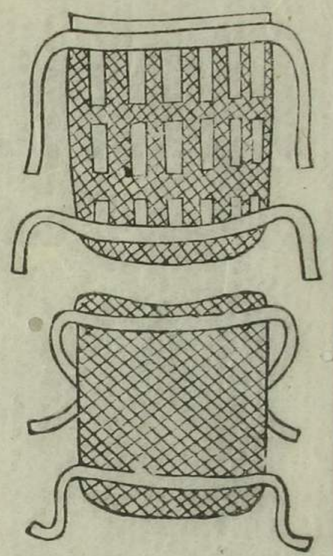


貫を脚て當





脚（きや）　半（いん）



こさやいんをひわて小藤ちらし想後を

想てきりばりあるを
ゐるり家こらぬ
のうあのこわり

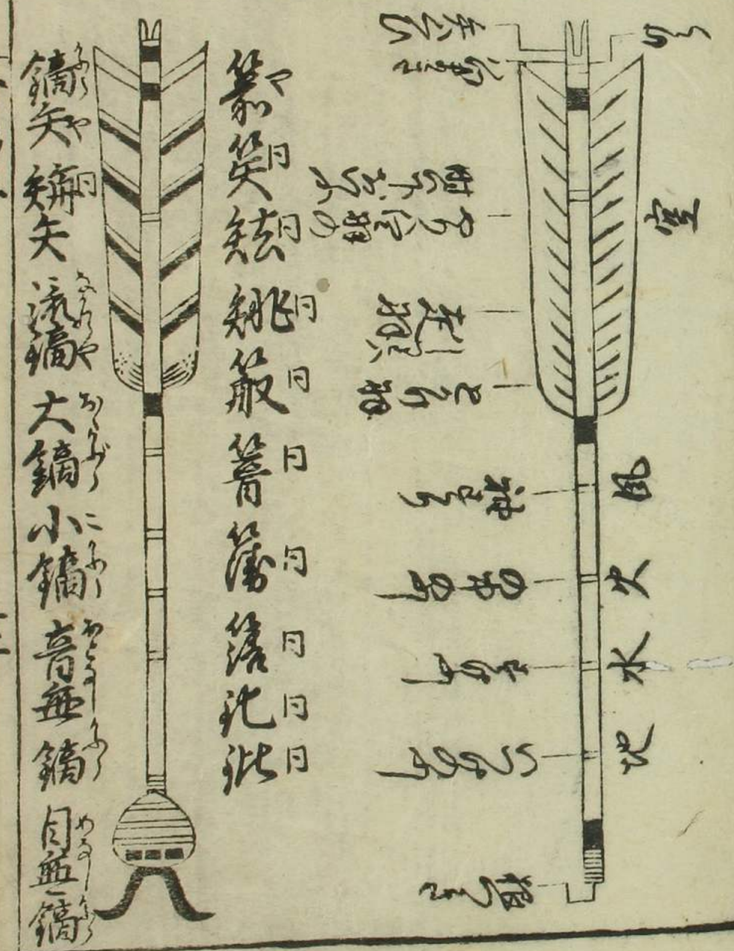
想して漢は今後白田（びやくごん）みが紀をもて角を
里馬皮（ひ）或は漢はびやくごんか思ぬりかまてを
おめぬりかあのこよりへし

▲箒（ごう）平（て）平佩（とい）楯（たて）こ家こ平

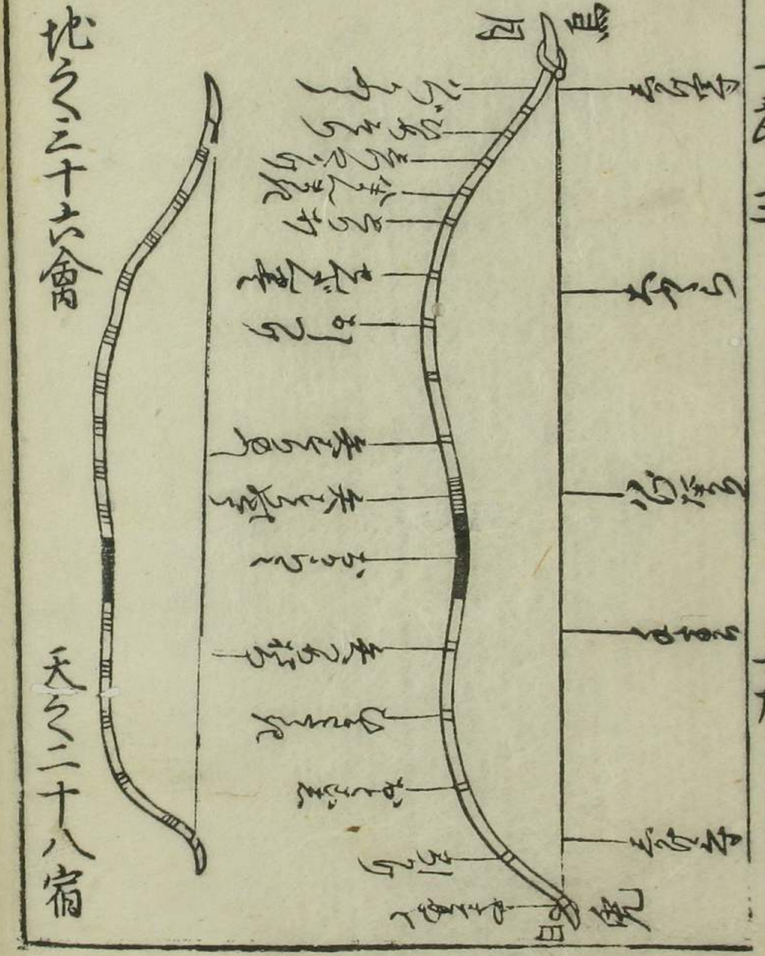
一家は今入唐織今織繻子（しゆす）まてはごんを
さやけわりのるいびらしどさしし但し
かこうけむ化をもてふを屋りをもて

右可（つき）縁好（このこに）平

征矢	鏑矢

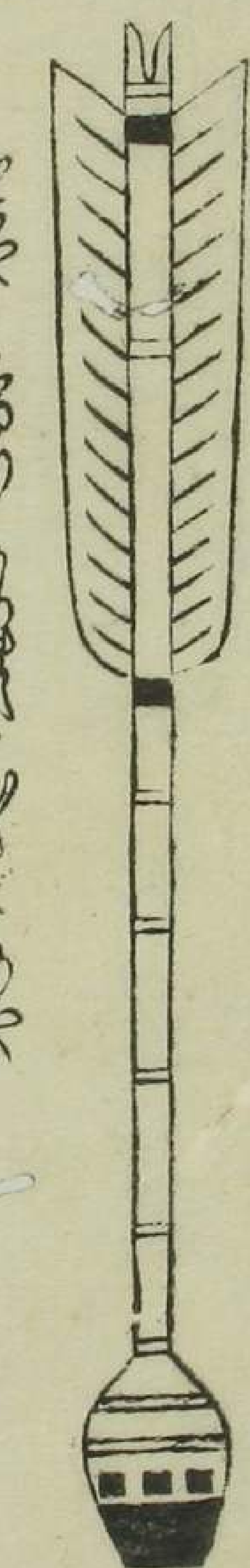


本弓	半弓



矢頭　蟇目

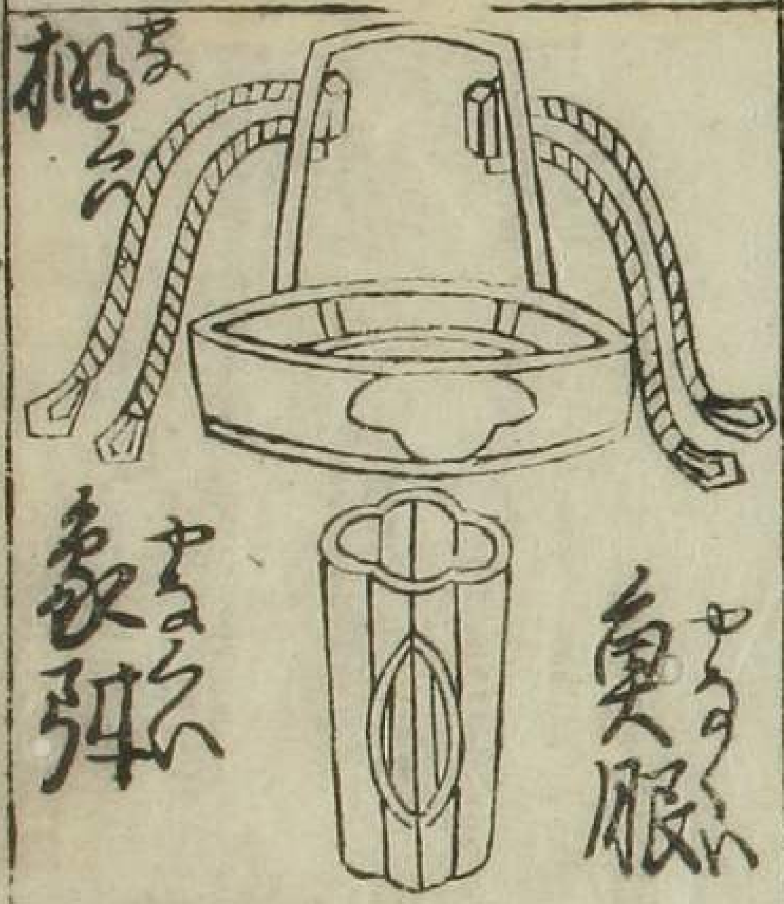
矢頭 等 同　細箆　小鳥箆　腹箆　食猴頭

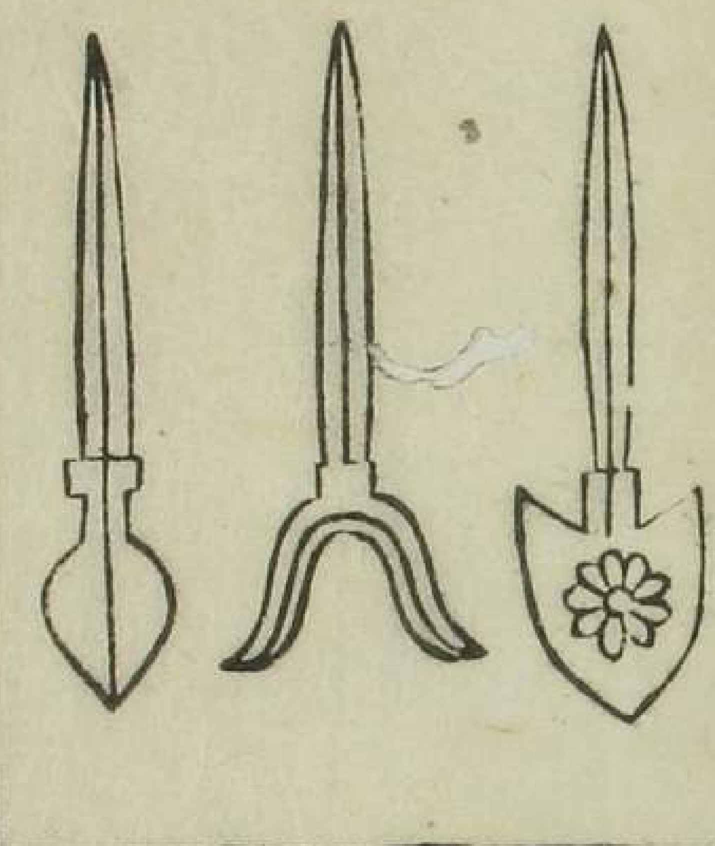


蟇目　引目 同　引目　蟾目 同　蟾目　蟾目 同　蟾目　鏑 同　鏑　矢

戦　翎　鏷　村濃矢

胡籙　鏃





上刺　中刺　狩股　鏷 同　鳥舌　鯖尾　楊葉　揃　破　蝶尾　鵰鏃　平　題箭　鏑 同　衝 同　剣　鏃　鈚矢

靫

籙　韊 同　韔 同　韜 同　鞬 同　靫 同

靫

箑 箑 乙保 乙凡 穗落 穣丸 窄 逆

羽壺とも書り

道儀靫 蜨河氏より始

祐尓皮 松粘

屍籠

弽

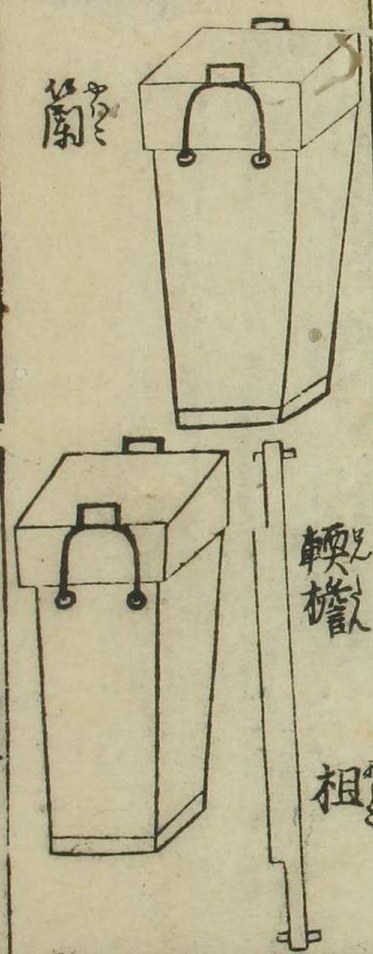
扶拾 狭 手 鬘

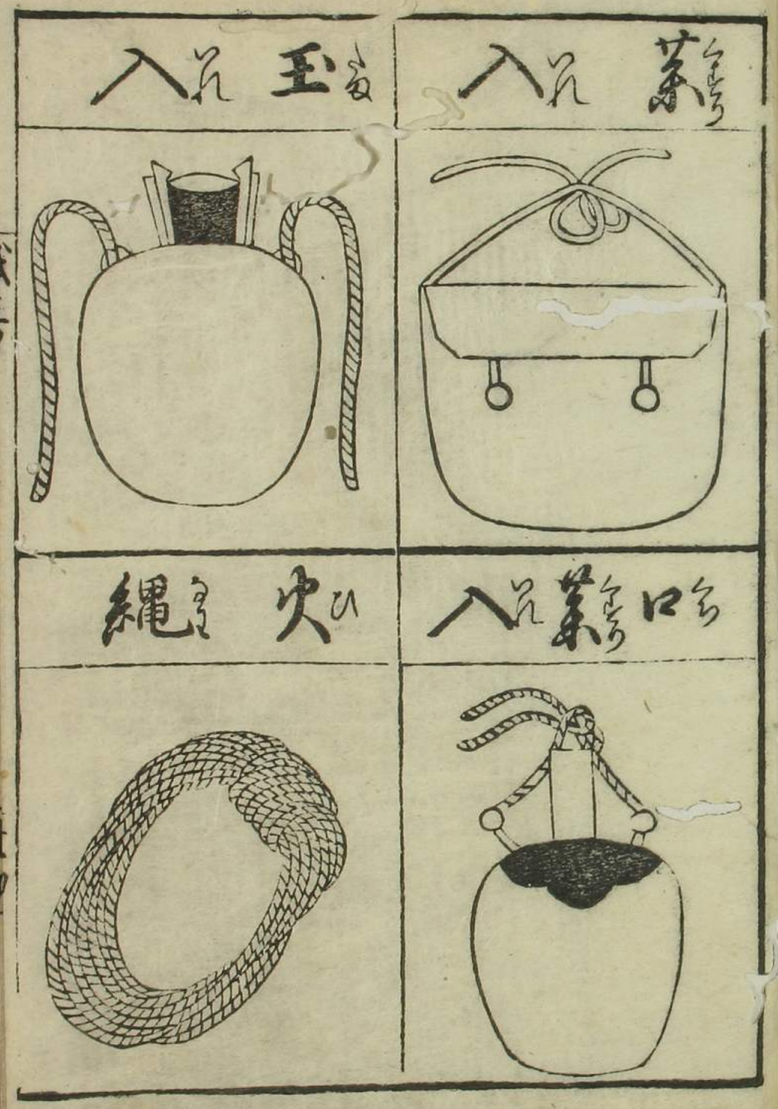
韜 革 扶 跲 沓

鞠

射 五十 わり 鷹 有

荷矢箱

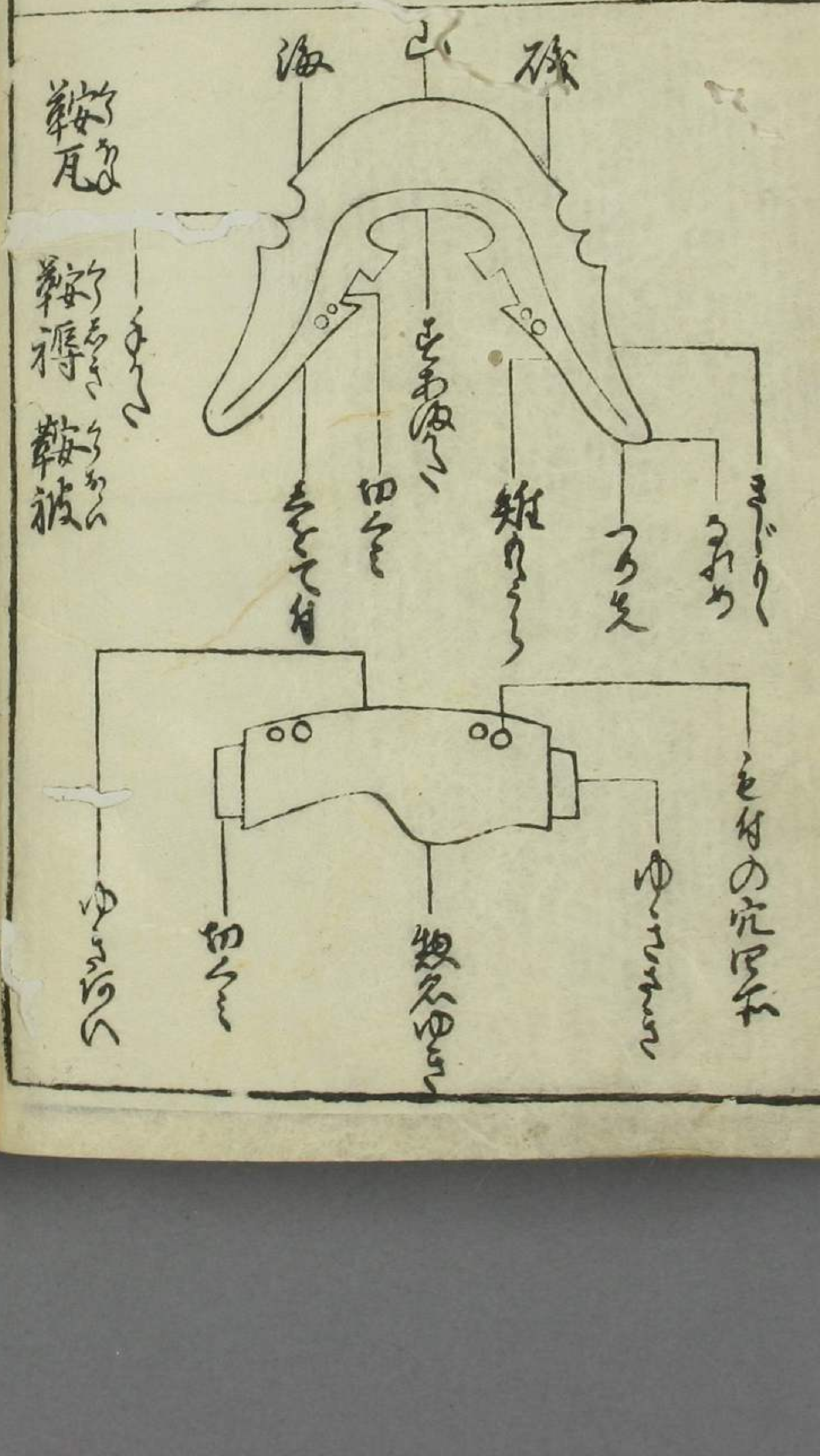




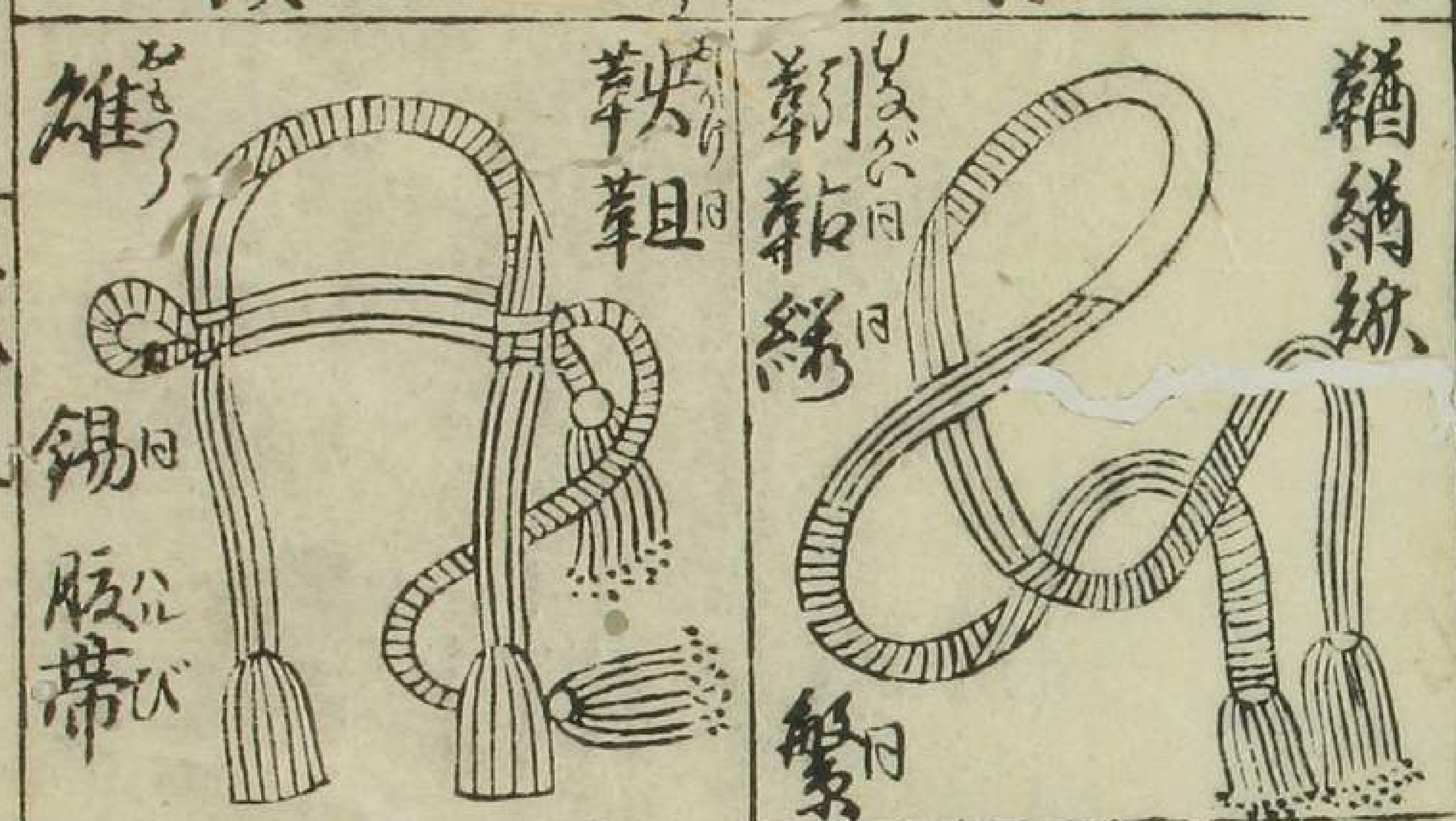
玉入
茶入
火縄
口茶入

鉄炮
種子

鞍 橋



鞦 靷



手 繩

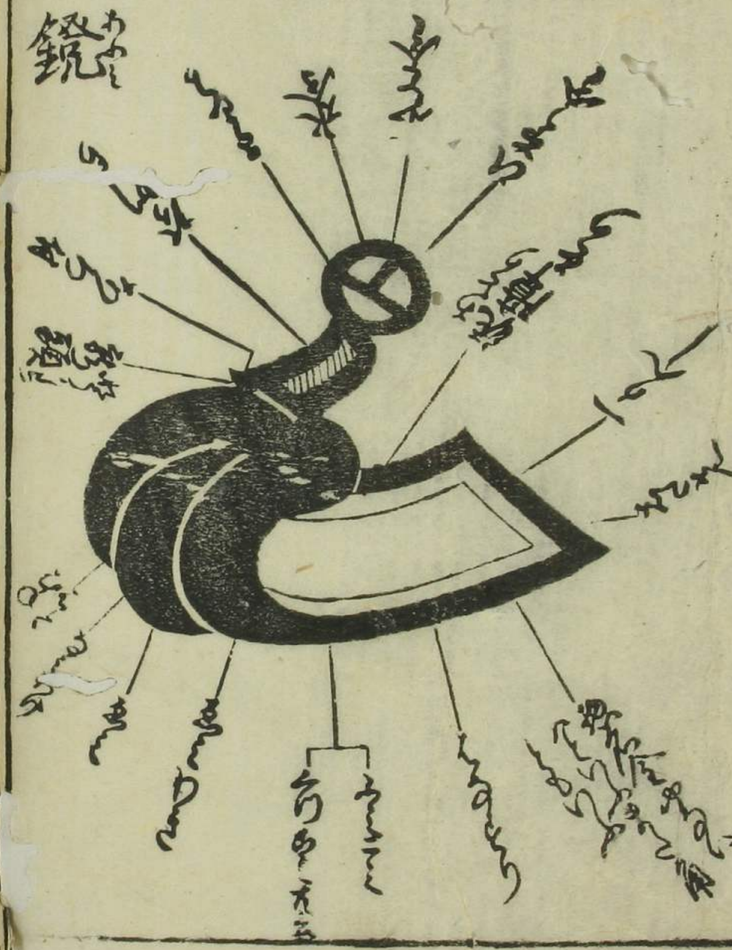
犯錠

鏡

轡

轡金

轡着金



橋金

銜鏈

靳

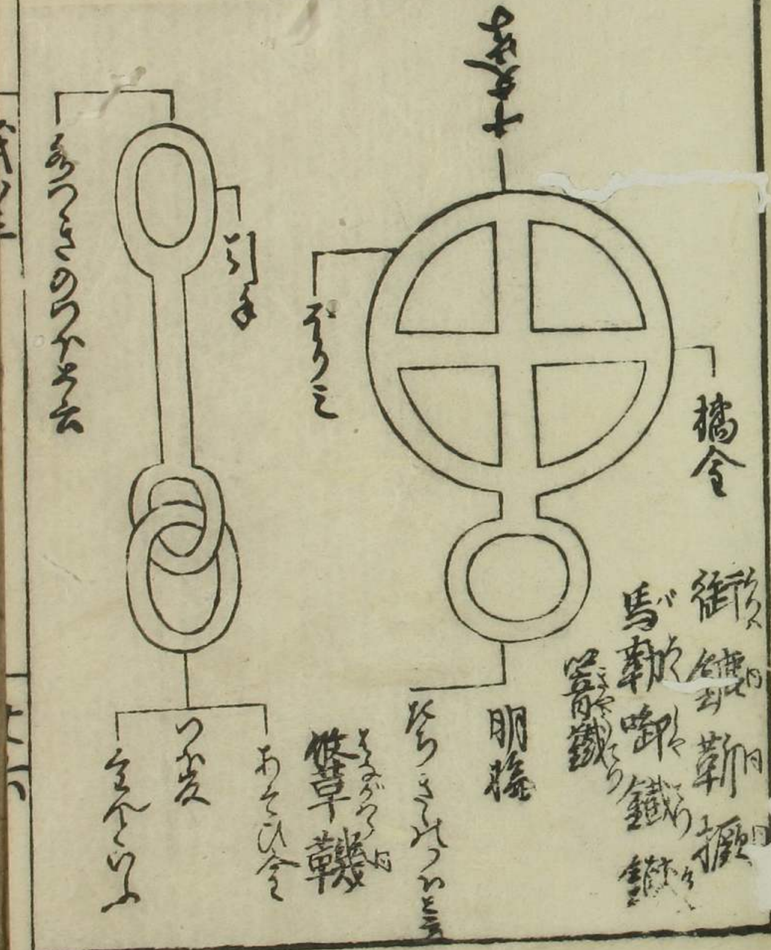
撫

馬勒

啣鐵

簪鐵

明橋

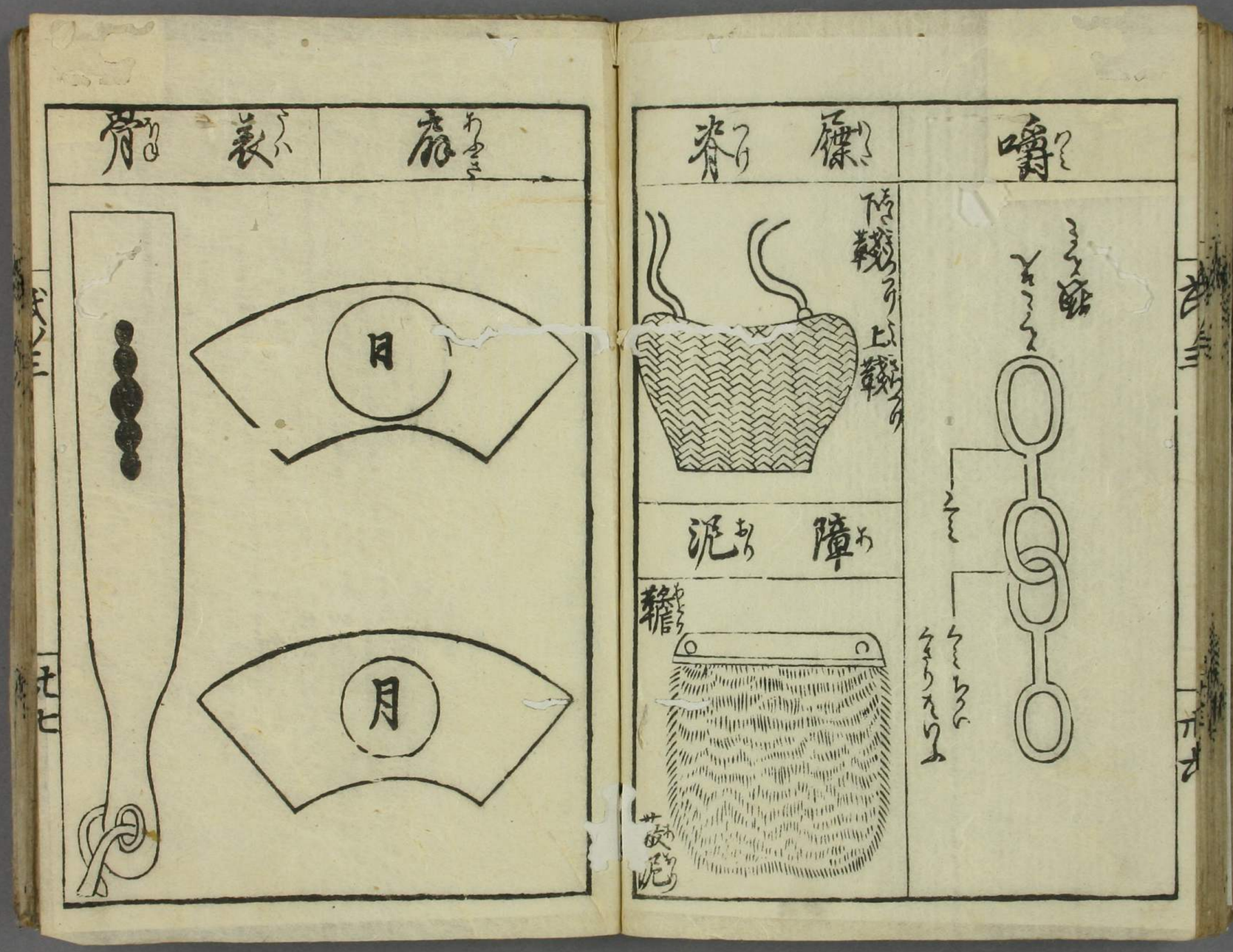


雙草鞿

あそび金

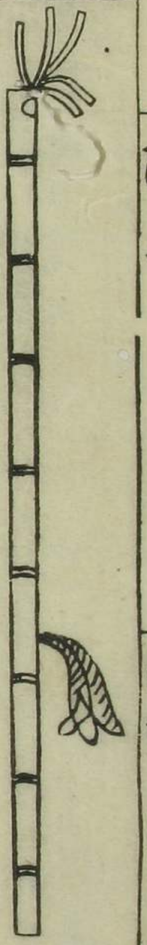
つれ皮

金あしらい



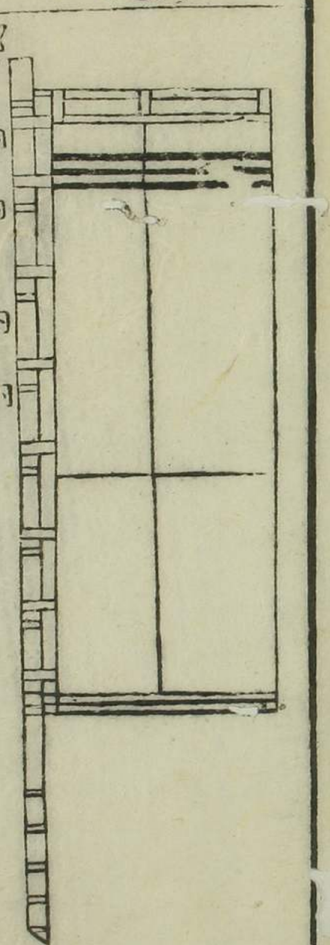
嚼
鏁
脊
障
泥
鞜
日
月

旌　竿

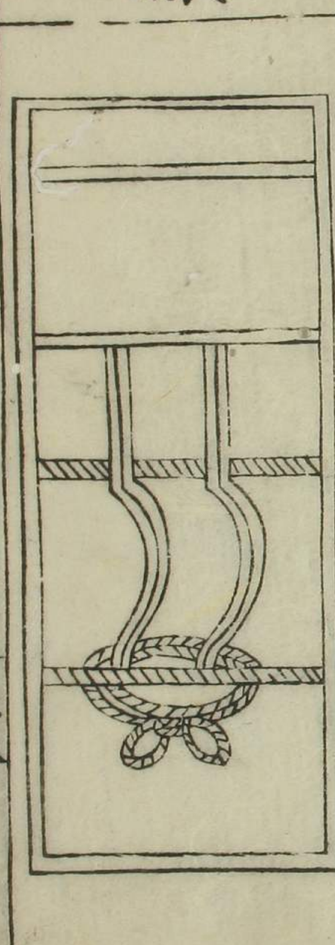


兵　幡

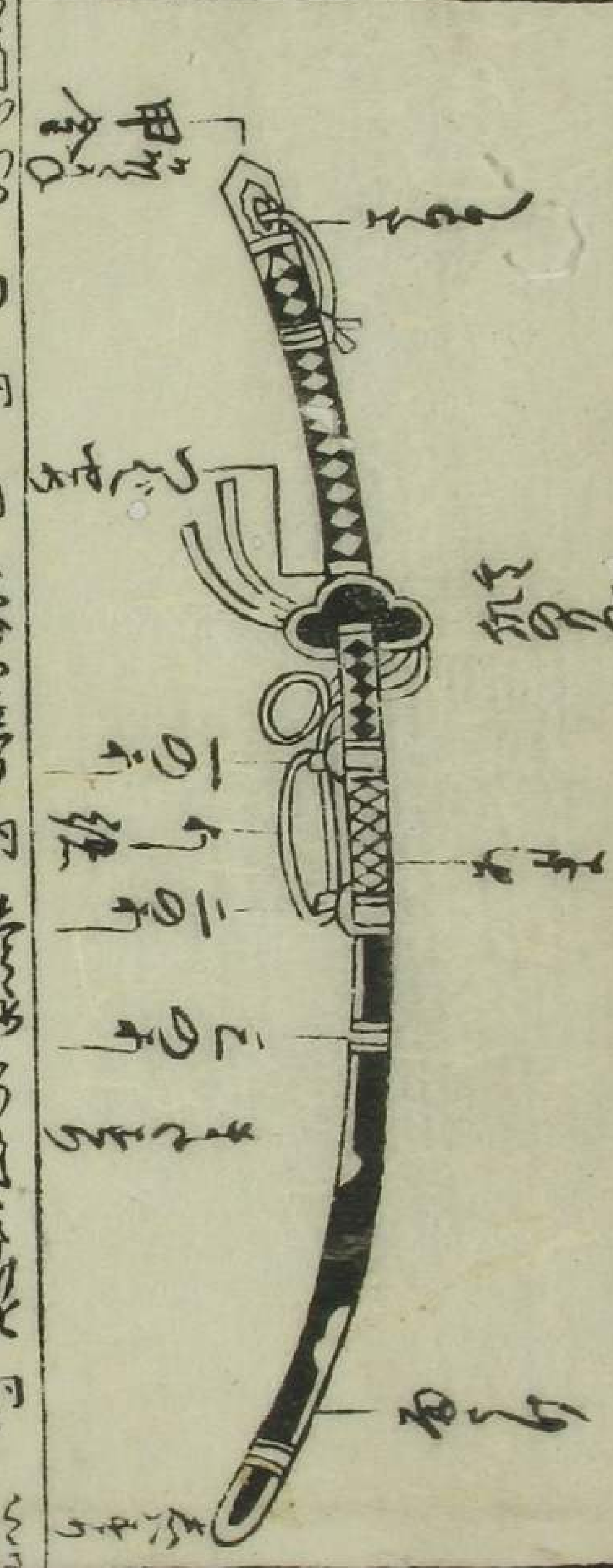
麾



楯

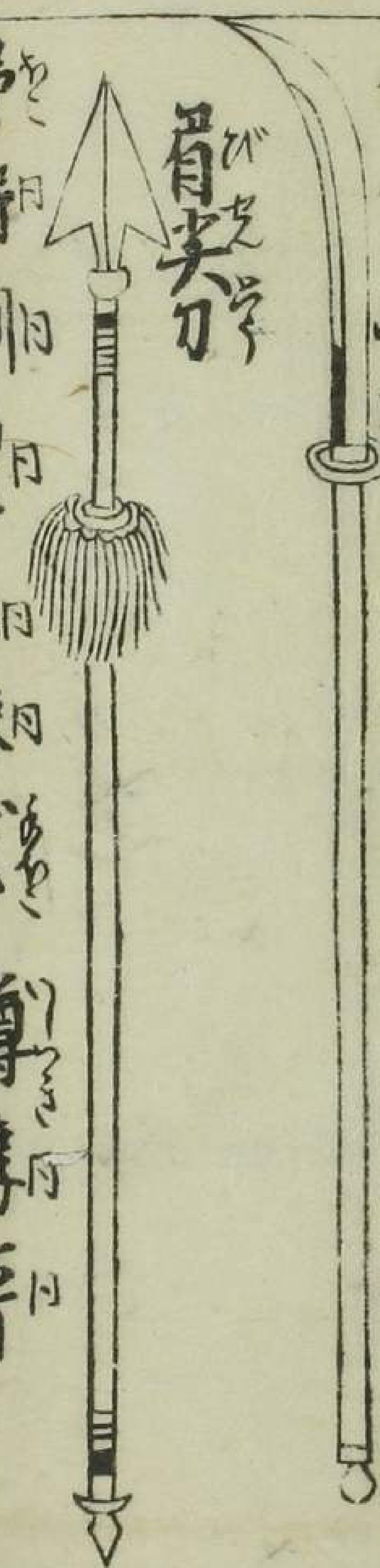


太刀



長刀

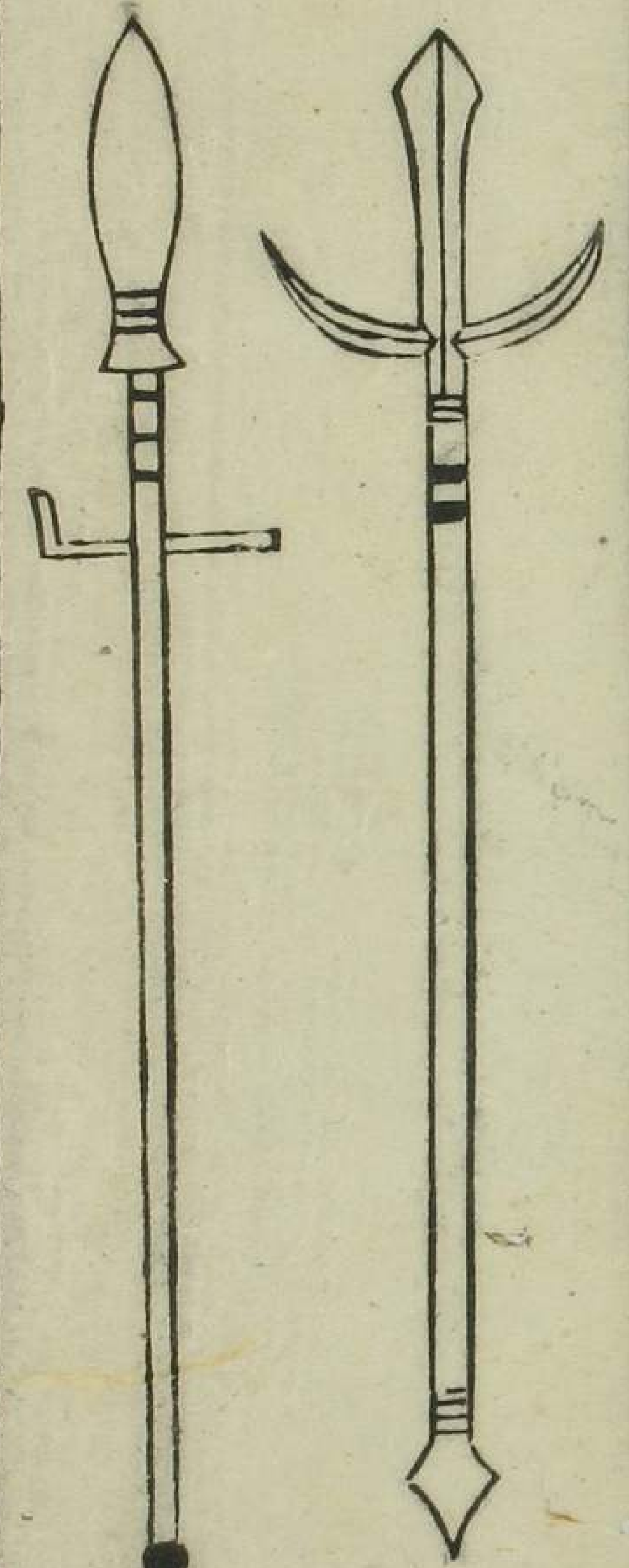
鐗 鋏 捎 㭰 東 琫 珌 鏌 鉘 栗形 縛 下緒 鉤



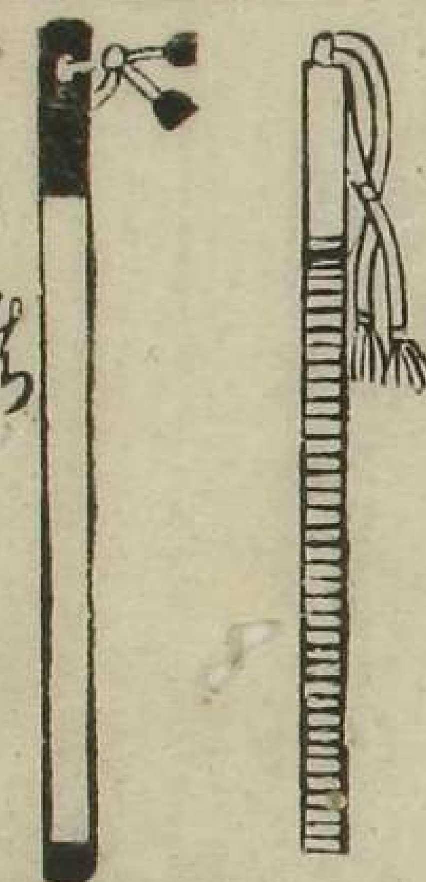
眉尖刀

矛 鉾 劉 瞿 𢧜 𢧛 戈 鐏 鐓 晉

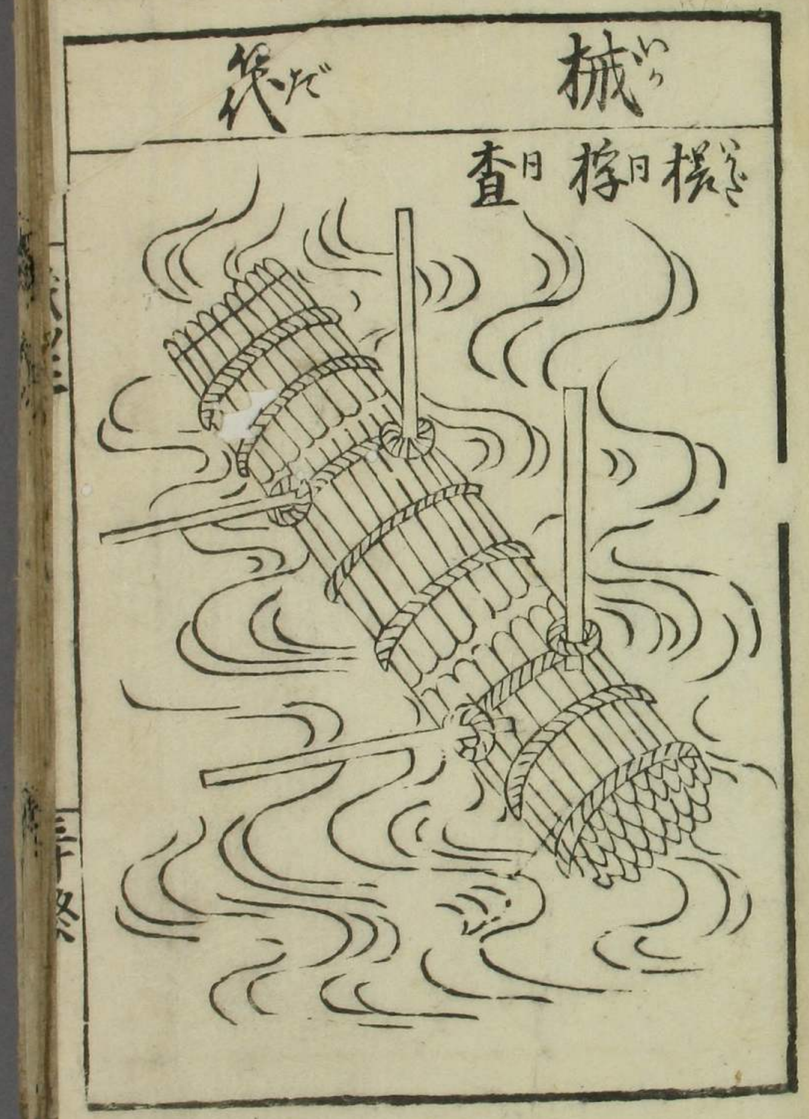
鋼叉



鞭　策



鞭 箠 棰 驅 殳 笞 篴 捶 𩌆 玉鞭 藊鞭 金鞭 皮鞭 鋉鞭 絲鞭 電鞭 蜀鞭 死活杖


械
筏
樸
桴
査

鈇
鼓
斧
戚
鉞
鐇
柯
鑪
鏢
桐

增

武具訓蒙圖彙

四

▲胴し次第

一どうぬいかきゐざゐかちり一段ハこざゐ一段ハ碁石
かしらかやうにござゐとご石がしらと段かちりにし
て熱さび色白糸のけひきゐのかるゐ抱れこがえ
熱かるゐるまちりしゐまきゐに八さうのかるゐ抱れこ
そしゐるんぢんかこひるのこ熱まちりふがんぎこ
ひ移りかしふくさうぎり白りふくまんとり熱
かるゐこ白りよ打入のひしかいるゐづまかがらきか酒さ
ゑあいはきかけと縫しかいの口か八けうちかたし
ちんとめ蜷ひとひ付をとめハ四歩一かせめ小こぜ
もいぎう衣裏さけかう入表ハあんかびろふど
かうらハ令入あるせいときんしやひしぬい白

小雲雄
玉川英摩

糸かさなりて表ハだひ裏ハ[illegible]衣うつ同家の[illegible]り白
地令へさく居り丸こみとるなり
一鶴手かくし小ざまぬり同家の糸はおきぎこの
けひき黒革みて居りとりうらハ黒ぬりが金の
朱の
一[illegible]ひもとくがく白紫花黄三匁おまぜ小志とめとうらと我
とべし[illegible]ぶ一みてとべし
一くりぶめ[illegible]ぶ一根をかくうら他ニ[illegible]
くりうしろのくりちもらくりるてる[illegible]
一[illegible]ふ[illegible]うらに大ひざ[illegible]つぎせりは[illegible]又ハ
けきんのうちよ[illegible]しかけるづし[illegible]
[illegible]

一胴裏ハだひ[illegible]令がびろふどかぬのうらなし裏ちりな
しか
一がりてり請づきまちうけいろ[illegible]他ニ二根[illegible]
[illegible]しかせい板[illegible]
右同家の[illegible]
一斗[illegible]七月[illegible]胴同家の[illegible]
[illegible]
[illegible]
胴丸[illegible]革[illegible]
一御[illegible]地ぬいかさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

草つりの中又ゑたりするへきなり

▲さうが詰脇

一胴小ざねのさうがみそねひものことくちそはせき
いとじめうきはるゝれるいたとさよりへ一にたし
小ざねにし袖けさんなも右同おなすへきなり

▲さいさうざう

一ざうさいざうみて小ざねのかごいしりうちみ
てんで寸なんして下地ハぬいのくるへし但し
わさりもひをのこざう八同しとはきうかすし常の
ごとくていめて右をいこさうハみてさうのまゝへ
おハおのこみなるへし

▲碁石頭糸ひしざう

一ざう趣碁石頭ひしざう趣もあさびぬ色小糸小糸ぼ幾り
たしむの二段小ざねひしかうみ糸わさきさうじの
のことく脇二段ひしかゝく糸同おかゝわさかゝわさ
の金物廻りもあり年迴り紙ふんゆけあり
もちのたるへし右碁石頭大小中あり

▲御胴挂紙包

一御ざうへ紙つゝみ趣ざう紙のあてがまんなし大縄
めみわさこうしのちのすざく廻りもあり廻りのさくし
けさん八やりげ頭うそし色ちんびろふど糸そ
ぐけり又苧きよりにわらくとくがくめとぢにて二
段ひしぬいてしむすあてとてがくれらんはひ
ぬいてと物ごとさ次第

▲亀甲さりゝさりちらしわたかし胴

一ずりに絵さりかう大サ六寸五分縦中にわさ入ひよ六
二ちうしてひよかそ合とさハさらひかよ縦つぎ
うらに布表からしやつてこゝハさりかうのかハもうも薦
の所ハ袖なりのごとく羽おり其こまうさとかしの錦
くゝ縁をおくりけらかし腹の口打小ひれが大紋表
甲小志ときめ先後動つて打肩を締るゝ付結び
但しけらずし夜裏ぬりかけさらし切さんかけが
けより続つくハかうむり付のるす

一ケ斗サエ算掛くらし一つさかしてヽ締がへよハ小志ぐ
めあつゝ打ちうよ振幹もそ結ひとあつ目のと
くけまんさるく可い付くしよ帯しの下よするぞ
につくべきさうり糸小ななるハきめくよきくゝうるべし

右のごとくしてとへさりかう糸もそこ、さりかうハわり
もなおの文今おりゝ付中よわさ入らハぬの付さう
ずりのとゝろべし

▲一緞子さり胴

一ずりかよみせ一りんじかうらのおひさめとうけ但し上の
さめをまく白くして赤銅のべうらず小ざくら
まへ三分くの扉ひ締りそろわりわさつゝ縁のりぐ
ぬりしものうまおわりの熱こて金かんのむりけわり
のこり捻をとき次第

右のごとくして花りいろゝさかくのさあるそ
さるもみて

▲ 屋のこうつゝぞう

一胴矢ぐり頭かしてぞりこうをかけてもりのこゝ
きせさしぞりこうのうら今銀のらくをもつ
衣べきことをかつまうよこをかくみりき糸ひし
よして糸こゝがくかむひ一張けひき糸ゆまひ
か獨二張けひき糸同おかこのこゝあくこれをべき
ゑす利

▲ あんだつゝ胴

一佛ぞうこゝ白あんざをかけ惣ぞう雲ゝ有宮歩
一のびやうはつゝにけむひ一張山ゝ頭けひき糸
びろぶどか獨二張右同おさしゝ雲氣も山ゝ頭
もまゝめり惣ぞり面り赤胴ふくまんあへし

右のどくあんざつゝかしてむしささの糸とりて
ひしめい惣こゝ面りわたざこゝ揚りかがゝ糸ろろめり
まこゝはそれぜんご惣こそもしこゝ付きかかりの
どきにしうべし

▲ 立筋標ぞら胴

一ぞう一のんじうらこそ筋ゝ六歩の色
うるしのこそ筋今と銀と紫黄こうしまた
漆黒ぬりかやうに一筋くの張こそ鶴さし
一かくもかくく筋色入まぜ惣をしゆくぞうれざ
墨打わたかこ狐のかるるゝにしもかぬこゝにかぬ

▲ 越中矢ぞ浪乃打さめを掛胴

一ぞう越中矢ぞりざんのおさめをかけ白の糸にてぬ

いのべかりたうこいきこの令臭ぎうハまづかなつこくりい
ろ熱取直り四歩一のかくまんけしくいやもりあと但し
越中矢筈ハ頭ハ小筈をと云熱して矢筈を
大中小あて

▲仁王胴

一ぎう仁王ぎうむねわづ股とみせて熱胴小
せいとあらせ誰の和よめいさのまんぶうの産の
まんつねより大くたるよ打直し熱さびたこ
おかことといからかして糸はぬこ次第

▲漢南の手鳩むねぎう

一佛ぎうもともむね今さび紙象服あて象服ハ
好こ次第但むね二但膝二但けひきこもあてのの

ぎこさよよるべし

▲網代掛胴

一佛胴ハ地中ぬりまきてきこに表とりつて但し
ろと組かけこめぬりの但行ぐちのめごとに令をす
まあこけこぐこ物のうすぐぎうハまぬりしろべこさか
熱ぎり直り四ぶこのかくまんれ物ぎこさおかろ
ぎし

▲天鵝絨包胴

一ぎとけぎう小ハともむねひろふとつこ熱こ直り
ぎんのうすハめかくまんけこうこ猿のうすぐまて包
直しなり
右のどくめして羅紗つこ猩くぐひつこけこう

つゝみてぬふによろしかるべし

▲山伏掛之胴

一胴小さく○けびき山伏に糸を掛白糸一筋紅一
筋け糸一筋ばかりとくに色一筋を絹さく○かしらそ
ろへてぬりほけかさのかゝるすぐにさしてて
金をすしぢにてぬり緑ぬんいたりけるべし

▲宝龍掛胴

一ずう甚石うら熱さびきに糸をせうけにし又紙
これ綴紙白りへござあん一方絹り糸をとうけかさ
かさのかさの金奥ずうハぬりうるに朱するり紙
とうせうけるくおくり

▲緑の蔵切

一ずうかざみ色一かんず頭熱緑色んおもしろく花緑は
は紫糸いとどりて花おんじ小紙ハ二ぬりあて熱
糸ハうを結ところ紙を金奥ぬりぬり同おさ
るべし
かくのごとくなをしさらしるこの紙をしこさらみく
石さきに紙をし切補うつくの紙をし切糸のこさきらじら
ぬりずうぬ次第

▲波頭蔵切

一胴よいうすきからみして熱ざん計践花ういい
とをめつて紙をしこさりけさうこけさのかゝるすくぬう
ずうハ緑みして右あのこ次第

▲外海掛ずう

一胴一のんだ頭丸ぶらとふたりわりあして豎あさ
ろもなくふせもそこを志のぎ後とりつて十りん
小さち付仕一かはすてふこれさぢか想後のろさ
めぬりけこうこけさうるすぐ通り等ごんなしぢ
しらべし

▲ 皮蔓縫の人 梹榔子塗

一ぞう鍬形にて加工蔓ぬいの人想びんらうじぬ
りけこがこけさのうるすぐ通りぞうのうはぶく
ごんなり糸をかぬこ沈木

▲ 想竹篠ふせぞう

一ぞう他さけをもつてはこみら箱にけづりさて
先一のんだかしらあしてかしめとかへしせひしを
篠ふせかはさち竹のうちにはは想にかしぬのをきせぬ
りけ想けひきたくがくかけこうこ揚のうるすぐ通り
狭黒ぬりのうす

▲ 令梨子花胴

一御胴想令なしぢにして紙のさてしかげのびこう
折か他なでこのぐうかけこうこ揚のうるすぐ通りく
ろぬりをかぬ想まきはへし

▲ 篠ふせかはひしぢ

一胴一文字かしらにしてかりひしぢ想をしたは
ての志の大にして中に志のさくさく立あき
るすくなてにひしをふせさうぞうにしてさきこ
付て志のをなてぬりうろくけこがこ揚のうる

を無りも黒ありむまいてぜんごふあり物あり物をさ
しぐい

▲山口頭うしらうとつゝ

一胴山口頭かゝ草糸ひしとら白糸かけてかゝ
揚の金をも無り右草つゝ是也但し山口頭大
中小を夫は山口耳ひ縫りをもて又は鉄ろ志後
山口と云をもあるいはひろしまに山口といふは山
うちのうしら小小谷をもてと云右いろ〳〵のうとつ
みを好をさ次第

▲奥鱗頭胴

一胴ぎよつまんうしらさひいろかとひしとらけてが
うけさのうなを無りせい後か又同さひいろか好

次第さるへし

▲節縄同胴

一胴一りんじかゝらつゝさび久一かもくの一派のうし
らなりあまをしてこまるいめのかゝらとぎんふんいけ
けにしてそのべうとらけてがゝ揚の金ぎを無りぬ
又同おなり

▲しゆきさ糸胴

一仰胴地糸むは一派けひきさしてゆと揚二派け
ひきさしてゝ糸か胴の内に平まさ糸にゆり鉄のまへ
はしるに二ひき組腰をゆせるにふらをゆりと付て
けてがゝけさの金をも無りぬり糸なり

▲腰かゝりの胴

一胴腰かりむすぶ所にさすぬりさひいろ糸真
絆訪曳繻三所やがからしもたくがくけひさう
たゝ繻の令ぎゝ也りしもたるべし

▲海老胴

一佛胴腕ゑ所をハ一枚にして四所ハ一ゆれ下乱
かをひしうゑゝ来たしむすぶ一枚の下ハいせ志
ひのとくまいらくとつけてしもぬり熱とハしも
繻ハうゑゝしも二所にぬりわけて後も同おわ
たゝわさの令ぎゝ也りにもしもなり

▲白ぶんぬりぶう

一佛ぶう熱びやだん胴にまきまきしまかゝをたり
くまへうしろに三ひきさ入ちかへかくべしけさがゝ

わさのかるのぎゝ也りハ志が革つゝさう耳ひ結り
ゝしまぬりかをハくりいろなり

▲佛胴おのべざうがんぶう

一佛胴一枚におのへみがきさ立令とをたりかをを以て
とんがうお後に十四人をとちゝ入て令ぎゝ也りさひ
いろゝ也下地さゝひ令ぎゝ也他てけさひさかか
りぬ次第

▲志がむすめとべうしら胴

一胴かをゝせ一ゆれ頭むすめぶぢ志がかをつゝ
たゝぬりかむすぶ二所にさひいろ四ぶ一のひやうしら
たしかしらんにおてけさゝ三ゝきさの令ぎゝ也り
志が革つゝ書はゝかへしり

▲青貝胴

一佛胴熱振(ふり)青かいてのべうつゝ黒ぬりけるゝ縮の令
色如り青皮同おなり

▲皮つゝみたてけさとぢ

一下地ぬのかさ大志がかなつゝ幅二寸のこそけさ縮
令と朱黒と三ヶさまさて付へしけるゝまさの
令色ホハ黒ぬりきるへし

▲大おらめ胴

一佛胴熱黒く大おらめぬりもの一位けひさ縮二位
けひさあかさ糸られるいかをへさゝ熱かるすぐ白ら
銀のまりんがし紙

▲小山居頭二角ぶりさぢ胴

一胴小山居頭銀の三角ぶりさぢ熱ぬりハうるゝけさ
かゝのかるすぐ出りハ黒ぬりけるゝ三角ハうる
こがしこるりしまして

▲青(セい)漆(しつ)草包胴

一佛胴小鳩ひ青漆草つゝ熱胴ハ長サ寸二三止り
銀銀のかひべうよこにひのと可けけるゝ縮の
かるすぐホ青漆ぬりか

▲黒糸黒草つゝ胴

一胴がんざ頭黒かるつゝ黒糸むるめさぢけるゝ縮
のかるすぐ出りハ黒ぬりけるゝ

▲志るかもとしし此胴

一胴一ウルド頭志るゝぶかるつゝてのの平べうけるゝ

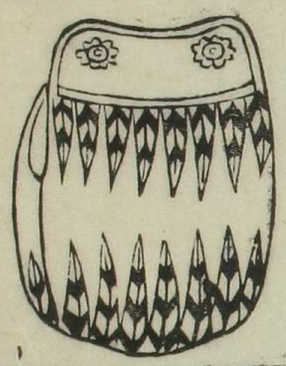
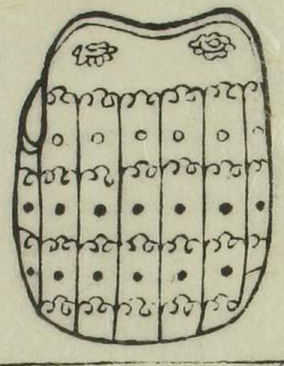
掘のかるぐハ[illegible]ぬりはしてしゝ葛蒲(ヒヤウ)かるをとりてとどしたるいふ又しゝかるをうとしたりしはをとりてとどし又ぬりつゝまきのかるをもてしも威をなすり

▲とへりんの絹

一佛絹惣[illegible]ぬりまゝりしろみかつかうに合かゝして二丈金のとへりん一丈ハむらふぢて一丈ハみかつりしてうけぐしてこゝ銀のかるすぐにハ[illegible]ぬりなすり

▲失笞(ヤヒヅ)頭惣銀もへさおとし絹

一絹失笞頭惣銀もへさ糸沙曳(ケヒ)わたこゝ銀のかるすぐ[illegible]

胴笞	丁子頭(ちやうじ)
	
▲丁子頭ゝ絹 一絹丁子頭三ツ頭惣さびいろ糸ひしぬい糸ひろ[illegible]かわたこゝかるすぐ[illegible]ぬ[illegible]同おのしるへし	▲絹笞 一佛絹さびしゝ[illegible]ちうまて[illegible]のとなりべ[illegible]て[illegible]裏ぐう[illegible]尾[illegible]の[illegible]わたこゝ銀のかるすぐ[illegible]同おなすり

▲もじつゝ羽

一羽かはこせ一かんど頭むすめこぢ想たくかゝぬ
まハ下地に鬼をじとさせ想うへしゝ也わたが
み銀のうすぐにハかへさ糸けひさかぬりハ入りり
こゝうしゝ也そうぐ羽ハ抱すきあまたあるべし

▲志がかはつゝさくあ羽

一佛羽志がかはつゝくりいろ銀のさくの花べう
ろ花ふつきの志たおりてもあこひやうの君ニハ金粉
にてすれあまきさ志ありわたかゝ銀のうすぐ思り
かはつゝ想みゝ思り思ふ一 かくまんあべし

鬼木頭

▲がんざかしら羽

一ぎうがんぎかしらこ志へ書
深さゝきけひさ糸ハもの三張
ハこれるひ鍋の張ハ白ゆきかく
のとく鍋ぎりけたかゝけさ
のうすぐ思ぬり同ぶがん
ざうしら大中小あり

▲うげまちの羽

一佛羽うづまさ想黒ぬりもの一張鍋二張け
ひさあかさ糸はちやいろか紐羽の君ニ長んさう
げを芳後に掛て一張たくまさてけたかゝ綴
のうすぐ思うを黒ぬりてるべし紐又右ゝうげ
まさをまれめの君ニ銀かんをもりあゝ

次第

▲竪(たて)鼻ぐり(とら)胴

一佛胴熱さびいろしめ一段獨二段けんりら斗(けひ)
さいと熱たくかくか胴の目まはそにせんごまつ
かとる能さてまなく丸をし黒く白て目ゑまに
歩一の丸ぐうと産としてうりべし

▲もんがしらうるし胴

一胴けんがしら熱黄(きう)うるし糸ひし秘(ひ)ゑ
うゑつきのかるすぐぬり切(ぬ)

▲熱金(ごこ)碁(ゴ)いし乾(カンラ)胴

一胴熱金(サウ)ごこりしらぬいのべしん緋(ひ)のいとけさうゑ脇(ワキ)
の金ぐれ口ぬりさるべし

▲革包すさなめぬり胴

一佛胴おけがを一ちんぐ乾かをうせてまがんざつけ
革(ひ)蓑熱胴をうづゝまきのうをとりそつゝ
をさなめまぬり組うづゝまれのよへみえをく根
に飾がゝ脇の金ぐれ口ハ金革をもつてつゝ志ハ
よく家(ヨセ)てをかぬ次第

▲たてたれ胴

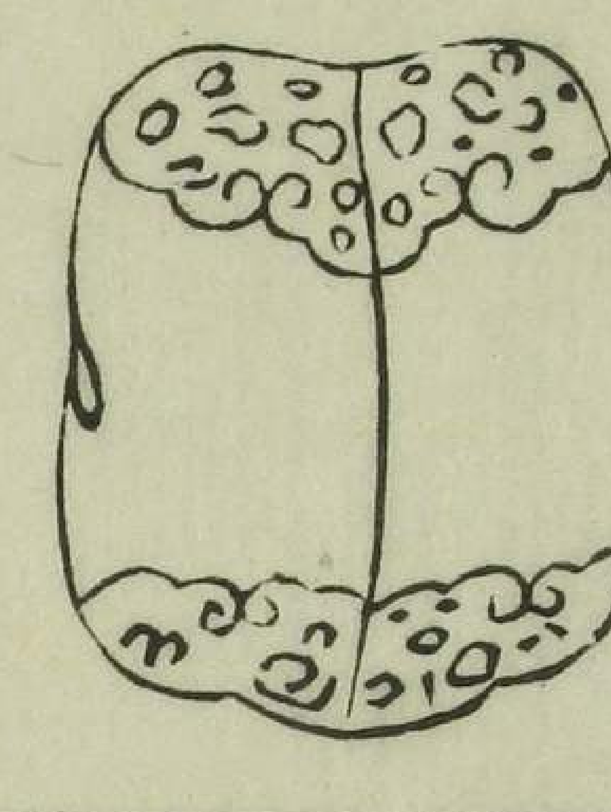
一胴を竪(タテ)たれまして熱を黒ぬり革(カハ)ひしらぐ
つゝれのかり忘ぐ花をつけ清ぐゝ一切宮歩一色忘
ハをせいしけおきあけ忘ゝあかかひか組花の大(サ)
すかとむハ宮歩一志んハ金かりかりよくまへうしろ
ゑ二枚(ふた)か組おちりまかぬ次第

▲惣紙白糸おどし胴

一胴一めんに鉄一枚にてつゝみひろきめ惣紙にして白糸

けひきさゝけさゝけさの今ぞ右同おなじ紙なり

撲雲形



▲真鍮でとりこし胴

一御胴もとしは惣きひのいろ

ひのてりあらにまくりしら

みのけさみてうとぐさしく

ともさんふくうし紙紙の

くゝりしの胴さしうくとぐ

大物をきさ流行

▲竪はぎ紀州緋縅胴

一胴竪はぎ紀伊三枚はぎ紀伊胴同胴八惣黒ぬり緋縅に

八一ツ作ぎ鋲茶花草つゝしあぬり皆ぶりらの皆ノ

せう紅さての不にはさんかうずゞひとりつててうちんかう

茶花かうすゞひ流行と茶の今形胴おもしろきよ流行

とまへせて惣しておゐ紙ハおもくと書てハき

かゝけさの今ぞゞおいは黒ぬりすり鋲をいろく

あるべし

▲青漆ぬりもつとし胴

一胴ハ惣せいしつぬり草つとみして茶の皆

金をとちあてとものぞ胴ハ基ハ鉄斗鉄びと

おくおうき胴ハ流行に胴の今おだいけさゞしつき

のかすゞる青漆ぬり草つとし惣ても出るうすぬり

ぬりの中ころのことく上對毛引より上ぬく上ぬ

と云縅ありて毛を引ぬいとりしあ

▲虎猾天鵝絨包羽

一佛羽小さとむす惣羽そくふひらうどとりつて
つゝ綿かゝむすいてつきこの今をそうハ志がる
包ゝりいろ惣ぎり 絹のなるもめかくはんを

▲さびゑこさいりうま紀念羽

一佛羽さびゑ惣羽地わかをこさいりうとうへまはさ
のさゝかくを今ゝんとりつてゝゝる綿がゝ猾の今を
そうさひゑなり右のとく仕羽の内あり入ひしさ
いくと来うゆしとりつてゝゝる又ハ惣はぬり
ふ志てふしきてのまゝ紀念あり或ハ義甲ましこハ
花のミワちへはんなり花の内惣菱ふ所ハ堂をる
めくのとくの物地あれ出てあつこくは綿まは

ふ志るもをさまが好ゝ矣

▲さびゑ小実惣たくがくおもし

一羽小實さびゑけひき惣たくがく綿絹の
かすぐ志うはぬりなり

▲佛羽壱さんの羽

一佛羽さびゑ羽おうしろは壱さん巻せて壱
さんハ黒ぬり一所にかく見ふはんなりの縹ぬり
きなり綿かゝ縹のかすぐそうをさひゑ
たるべし